

平成21年度事業報告(案)

1. 会勢報告

{ 総務担当：斎藤 真 }

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成21年4月1日	平成22年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,887	1,860	103	130

会員資格

変更

正会員:	1,765	1,733	75	113	-38	+6
準会員:	122	127	28	17	+11	-6

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成21年4月1日	平成22年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 () : 支部間 の移動
北 海 道	50	52	7	5	+2(0)
東 北	62	61	1	3	-2(+1)
関 東	1,071	1,042	43	76	-33(+4)
東 海	160	166	14	9	+5(+1)
関 西	327	323	27	27	0(-4)
中国・四国	118	120	8	6	+2(0)
九州・沖縄	80	77	2	4	-2(-1)
国 外	19	19	1	0	+1(-1)
賛 助 会 員	39社 40口	37社 38口	1社 1口	3社 3口	-2社 -2口

2. 事業報告

{総務担当:高藤 真}

- (1) 日本人間工学会の一般社団法人化を実現し、平成21年6月開催の評議員会および定期総会において定款を審議した。また組織体制、各種規程の見直しを行った。
- (2) 第50回記念大会を赤松幹之大会長のもと平成21年6月10日～12日に(独)産業技術総合研究所で開催した。また第51回大会を横山真太郎大会長のもと平成22年6月19日～20日に北海道大学で開催することを決定した。
- (3) 評議員会および定期総会を平成21年6月10日に(独)産業技術総合研究所において開催し、平成20年度事業報告・収支決算および平成21年度事業計画・収支予算を審議の上、決定した。
- (4) 理事会を5月15日、6月9日、9月7日、11月13日、1月30日、3月23日の計6回開催した。
- (5) 機関誌「人間工学」の第45巻2～6号および第46巻1号の計6冊を発行した。
- (6) 認定人間工学専門家に関する事業活動においては、組織名を日本人間工学会人間工学専門家認定機構と改めた。また認定試験(A方式試験)を実施し合格者が5名、また筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)についても2回実施し2名が合格し、これら7名について登録手続きを経て認定工学専門家資格の登録認定を行った。また準専門家18名、アシスタント6名が認定された。平成21年度末現在の認定人間工学専門家は160名、準専門家48名、アシスタント6名である。その他、定期総会・講演会の開催、ガイドブック改訂の発行、シンポジウム企画などを行った。
- (7) 常設委員会・担当である広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当(安全工学シンポジウム2009開催)、横断型基幹科学技術研究団体連合担当、人間工学専門家認定機構、また臨時委員会・担当として、ニーズ対応型人間工学展開委員会、企業の間工学教育のあり方検討委員会、安全人間工学委員会、テレワークガイド委員会、人間工学技術戦略委員会、人間工学研究ガイドライン検討委員会、選挙管理委員会、文科省科研費担当を設置し、各事業を積極的に進めた。
広報に関する事業活動においては、グッドプラクティスデータベース(GPDB)の積極的な広報、募集とともに英語版サイト公開の準備を行った。第50回記念大会にてポスター展示、デモ展示を行った。「学生・企業の架け橋プロジェクト」の推進、公開講座2010の開催企画支援およびホームページの充実とリニューアルを推進した(広報委員会)。
編集に関する事業活動においては、学会誌の定期発行業務を遂行するとともに、奇数月に通常編集委員会、偶数月に電子編集委員会を開催し、査読業務の効率化・迅速化を進め、投稿原稿の査読期間の短縮化を図った。紹介コーナーの継続と特集号を創設した。人間工学誌のバックナンバーの電子化が(独)科学技術振興機構により第1巻1号から第44巻6号及び特別号まで完了した(編集委員会)。
国際協力に関する事業活動においては、IEA(国際人間工学連合)理事会(8月8～9日、北京)への出席、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会への協力を行った。JES / ESK(大韓人間工学会)合同シンポジウム平成22年度韓国での開催に向けて協力準備を進めたほか、様々な国際活動に対応した(国際協力委員会)。
ISO/TC159国内対策に関する事業活動においては、FDIS、DIS等の規格原案に関する計27件の投票を行うとともに、国内委員会の開催および国際会議出席によって4件のISO規格の発行に寄与した(ISO/TC159国内対策委員会)。
表彰に関する事業活動においては、平成21年大島正光賞、同優秀研究奨励賞、平成21年度功労賞、同研究発表奨励賞等の運営業務を行うとともに、一般社団法人化に伴う既設表彰制度規程の改定、国際表彰への対応、新規表彰制度の検討、ホームページ開設の準備を行った(表彰委員会)。
日本学術会議に関する事業活動においては、日本学術会議からの発信情報をホームページに掲載、またJES公開講座の後援を取得するなど日本学術会議との連携を強化、関連学術団体との連絡および協力を進め、人間工学の普及に努めた。幹事学会として日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2009(2009年7月9日、10日)を開催した(日本学術会議担当)。
横断型基幹科学技術研究団体連合に関する事業活動においては、カンファレンスの参加や会誌「横幹」の編集を行った(横断型基幹科学技術研究団体連合担当)。
ニーズ対応型人間工学展開委員会に関する事業活動においては、若手人材支援、産学官民協同推進、学術、ニーズ調査、人間中心設計などの各分野から人間工学の普及策と情報発信戦略を検討・展開した。

企業の人間工学教育のあり方検討委員会に関する事業活動においては、教育実践のための具体案を立案するとともに企業の人間工学教育の実践として講演会や公開講座を開催した。

安全人間工学委員会に関する事業活動においては、活動方針、活動方法、活動内容を検討するとともに安全人間工学研究部会を立ち上げ、第51回大会におけるシンポジウムを企画などを行った。

テレワークガイド委員会に関する事業活動においては、テレワーク関連の情報収集と課題審議および「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」の見直しについて検討を行うとともに「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」（2010年版）を作成した。

人間工学技術戦略委員会に関する事業活動においては、技術戦略ロードマップの活用について検討を行なうとともに、子どもの人間工学分科会を新設し、日用品・製品安全、保育・教育、遊び場設計・遊具安全、防犯の4つのワーキンググループを設置した。

人間工学研究ガイドライン検討委員会に関する事業活動においては、被験者を用いた人間工学研究のための標準的かつ実践的な倫理指針を策定し、ホームページに公表した。

文科省科研費担当に関する事業活動においては、平成22年度に検討を開始する予定の細目表の見直し時に人間工学採択に向けて文科省に対し組織的な働きかけを行うこととした。

第50回記念大会担当に関する事業活動においては、学会主催シンポジウム、特別講演2題の他、特別企画として人間工学歴史写真の展示を行った。

選挙管理委員会に関する事業活動においては、代議員選挙、理事・監事選挙、理事長・副理事長選挙を行い、選挙結果を公表した。

- (8)支部活動、研究部会活動の活性化を進めるとともに、支部長・部会長会議（平成21年6月9日）を開催し、今後の支部、部会のあり方について検討を行った。法人組織への移行にともない、支部・部会の体制を整備していくこととした。7支部と医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、システム大会部会の計10研究部会が活動を行った。
- (9)北京で開催された第17回IEA大会(8月9日～14日)へ参加するJES会員へのサポート活動をした。
- (10)公開講座を平成22年3月23日に東京において開催し、「日本のテレビは何故北を向く？-ホームリビングと人間工学の新機軸-」を主題に窪田悟氏、吉武良治氏の講演および小実験等を行った。
- (11)平成21年研究奨励賞の受賞論文を決定し、受賞者に同賞を授与した。また平成21年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を決定し、同賞を授与した。平成21年度日本人間工学会功労賞の受賞者22名に対する授与式を行った。
- (12)関連学術団体等との連絡および協力として、40件の共催・協賛・記事掲載等を行った。
- (13)学会事務局の業務運営については、専任事務職員を1名雇用したほか、継続して一部会員管理業務の外部委託を推進し、効率化を図った。

3.担当・委員会活動

[常設委員会・担当]

3-1.広報委員会

{委員長:吉武 良治}

平成21年度はニーズ対応型人間工学展開委員会（以下ニーズ対応委員会）と連携し、事業計画に掲げた活動を中心に、積極的に広報活動を行った。4回の委員会（4月、6月、10月、12月）を開催し、ニーズ対応委員会主催委員会（7月、3月）において連携した打合せを行った。また電子メール会議等にて広報活動を推進した。主な活動は以下の通り。

- (1)平成19年度に開設したグッドプラクティスデータベース（GPDB）に関しては、積極的に広報、募集、維持・管理を継続し、普及を推進した。現在、英語への翻訳作業に着手しており、GPDBの英語版サイト公開の準備を進

め、平成22年9月までには公開予定である。また、台湾人間工学会と連携して中国語への翻訳に協力することを進めている。なお、GPDB活動の国内外の認知度を高めるために以下の発表を行った。

- ・IEA 2009 (Beijing, 2009年8月)での発表
 - ・USE 2009 (Understanding Small Enterprises 2009, Denmark, 2009年10月)でのWORKSHOP報告
- (2)第50回記念大会にて、大会事務局と協力して、人間工学活用事例展示を推進、実施した。特にGPDB事例に関しては積極的に事例展示を奨励し、16事例のポスター展示、デモ展示を行った。
 - (3)平成20年度にスタートした「学生・企業の架け橋プロジェクト」に関しては、本年度もさらに推進し、第50回記念大会、及び第39回関東支部大会にて実施し、盛況であった。
 - (4)公開講座2010の開催企画を支援した。今年度は、実験やアンケート調査の実技を交えたはじめての試みを行い、企業の人間工学教育のあり方検討委員会とともに新しい取り組みを推進した。
 - (5)学会活動の社会発信と会員への情報還元を目的として、広報委員会内に「広報特派員制度」を設けた。大学院生・若手研究者を任命し、全国の人間工学関連イベントを取材してもらい、その原稿をHPに今後掲載していく予定である。
 - (6)ホームページのリニューアルを推進した。コンテンツに関してはニーズ対応委員会が中心になって検討し、常に連携をとりながら進めた。平成22年4月に第一次のリニューアルが実施済みであり、9月までに段階的に進める予定である。
 - (7)ホームページを活用し、重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベントの案内などを広報した。以下に掲載ニュース例を示す。
 - ・一般社団法人日本人間工学会の設立に関する情報や定款等の掲載
 - ・本学会に関連した学術会議情報、横幹連合情報などの掲載
 - ・「人間工学 ISO/JIS 規格便覧 2009」の掲載

3-2. 編集委員会

{ 委員長:加藤 象二郎、副委員長:小松原 明哲 }

(1)学会誌「人間工学」の編集・発行状況

- ・平成21年 4月:第45巻2号(81ページ)総説1編、原著5編、短報1編、資料1編、紹介コーナー1編 他
- ・平成21年 6月:第45巻3号(51ページ)総説1編、原著1編、短報3編、資料2編、学会参加報告1編、書評 他
- ・平成21年 8月:第45巻4号(54ページ)原著4編、短報1編、資料1編 他
- ・平成21年 10月:第45巻5号(55ページ)総説1編、原著4編、短報1編、紹介コーナー2編 他
- ・平成21年 12月:第45巻6号(38ページ)総説2編、原著2編 他
- ・平成22年 2月:第46巻1号(82ページ)原著7編、資料3編 他

(2)編集委員会の開催

奇数月に編集委員会を開催し、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催した。

(3)投稿数および査読者数

投稿された原稿数とそれに対する査読依頼者数は以下のとおりであった。平成21年度の投稿総数は80編、査読者数は139名であった。

- ・平成21年 5月(第12回委員会)
投稿数 11編(総説1編、原著9編、短報1編):査読依頼者数 31名
- ・平成21年 7月(第13回委員会)
投稿数 15編(原著10編、短報2編、資料3編):査読依頼者数 36名
- ・平成21年 9月(第14回委員会)
投稿数 15編(総説2編、原著9編、短報3編、資料1編):査読依頼者数 35名
- ・平成21年 11月(第15回委員会)
投稿数 22編(総説1編、原著15編、短報6編):査読依頼者数 53名

- ・平成22年1月(第16回委員会)
投稿数11編(総説1編、原著9編、短報1編)：査読依頼者数30名
 - ・平成22年3月(第17回委員会)
投稿数6編(原著6編)：査読依頼者数16名
- (4)紹介コーナーの継続と特集号の創設
- 第41巻4号より学会誌に「紹介コーナー」を設け、研究室等紹介、学会等への参加記録、活動記録、書評などを紹介している。
- ・特集号について
学会誌に新たに「特集号」を創設し、毎巻5号を特集号とすることとした。第2回の特集号は45巻6号とし、「聴覚」を特集号テーマとし発刊した。
 - ・研究部会総説について
原則として学会誌の偶数号(第44巻3号よりスタートし、以下4,5号)に、既設研究部会による会員への活動報告の観点から当該領域の「総説」を設けることとし、現在編集委員会で決めている順番で執筆依頼を行っている。
- (5)投稿用紙について
- 投稿用紙はホームページ内の編集委員会ページよりダウンロードできる各種電子版書式を掲載した。
- (6)編集委員会のホームページ更新
- 第17期編集委員会のホームページを更新した。また、発行済みの学会誌第44巻6号までの目次を検索できるようにホームページ内の情報を更新した。
- (7)査読期間の短縮
- 迅速な査読を心掛けるため、平成16年10月(第16期編集委員会)から続けている副査の査読期間短縮(従来1ヶ月であったものを2週間に短縮)を継続した。
- (8)掲載までの最短日数
- 投稿原稿の受付から掲載可となった期間は最短で4ヶ月、その平均は6~7ヶ月(前年度は6~7ヶ月)であった。
- (10)投稿原稿の採択率
- 第17期編集委員会が平成21年度に受付けた投稿原稿は80編で、採否の結果がでた投稿原稿62編のうち、採択されたのは39編(採択率62.9%)であった。なお、筆頭著者が学会員の投稿原稿56編中、採否の結果がでた投稿原稿44編のうち、採択されたのは30編(採択率68.2%)で、筆頭者が非学会員の投稿原稿24編中、採否の結果がでた投稿原稿18編のうち、採択されたのは9編(採択率50%)であった。
- (11)大島賞・研究奨励賞について
- ・平成22年大島正光賞・研究奨励賞について選考結果を表彰委員会に報告した。
- (12)人間工学誌のバックナンバーの電子化事業完了
- 人間工学誌バックナンバーが(独)科学技術振興機構により第1巻1号から第44巻6号及び特別号が全てJournal@rchive(http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnlindexlist_ja.php?idx=12&anc=&kbn=2)に掲載が完了。無料で検索が可能となった。現在、第45巻1号以降についてJ-STAGEに電子化されたものを掲載する活動を実施中である。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典}

- (1)IEA理事会:平成21年8月8日~8月9日 北京(中国)
- 学会から council member として堀江委員長・岡田委員・小谷委員が出席。各国の年次活動報告として日本からはJES法人化、人間工学グットプラクティスデ - タベ - ス、JESロードマップの進捗状況などを中心に報告した。なお、新三役に President: Andy Imada(U.S.A)、Secretary General: Eric Min-Yan Wang(Taiwan)、Treasurer:

Klaus Zink(Germany)が選出された。

(2)委員会開催

担当理事による会合を4回開催。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(3)理事会審議・報告

IEA PSE 委員長へ藤田祐志氏の就任、IEA 会費など

(4)国際交流

・日韓ジョイント・シンポジウム IEA2009へ協力するために今年度は中止

(5)国際活動関連記事

第45巻3号 中華民国人因工程学会(Ergonomic Society of Taiwan)参加報告(齊藤 進)

第45巻5号 2009年 IEA 理事会参加報告(岡田有策、小谷賢太郎、堀江良典)

第44巻5号 IEA2009 参加報告(小谷賢太郎)

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志}

(1)委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会:全体会議4回、分科会66回
- ・国際会議出席状況:27回の国際会議に延べ80名出席

(2)発行規格、投票

<新ISO規格>:4件

- ・ISO/TR 7250-2:2010 Basic human body measurements for technological design -- Part 2: Statistical summaries of body measurements from individual ISO populations
- ・ISO/TR 9241-100:2010 Ergonomics of human-system interaction -- Part 100: Introduction to standards related to software ergonomics
- ・ISO 9241-210:2010 Ergonomics of human-system interaction -- Part 210: Human-centred design for interactive systems
- ・ISO 9241-920:2009 Ergonomics of human-system interaction -- Part 920: Guidance on tactile and haptic interactions

<投票> : FDIS 1件、DIS 7件、CD 3件、SR 9件、NWIP 5件、DTR 2件

(3)分科会活動

- | | | |
|-------------------------------------------|---------|------------------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査:青木和夫 | 分科会0回開催(メール審議のみ) |
| ・SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査:横井孝志 | 分科会2回開催 |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査:山本 栄 | 分科会43回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査:柄原 裕 | 分科会4回開催 |
| ・TC159/WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学) 主査:佐川 賢 | | 分科会2回開催 |
| ・JIS 分科会 | 主査:米村俊一 | 分科会14回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長：阿久津 正大、副委員長：平柳 要}

(1)委員会開催状況

委員会を4月18日11、6月10日、9月1日(電子メール委員会)、11月4日、12月28日、3月12日に開催したほか、随時電子メールでも討議を進め、下記について活動を行った。

(2)活動内容

1)表彰制度の改定、新設について

- ・一般社団法人化に伴い「大島正光賞選考方法及び授与基準」、「研究奨励賞選考方法及び授与基準」の改定案を理

- 事に上申した(両賞の選考方法及び授与基準は第2回理事会 2009年11月13日 で承認、同日付で改定)。
- ・「功労賞選考方法及び授与基準」の改定案を理事会に上申した(功労賞選考方法及び授与基準は第4回理事会 2010年3月23日 で承認、同日付で改定)。
 - ・「日本人間工学会賞(仮称)」の創設を目指し、同賞選考方法及び授与基準について検討し、委員会案を策定した。
- 2)大島正光賞について
- ・平成21年度総会において、平成21年大島正光賞の授与式を行った。受賞論文は、「高齢者を対象とした駅の案内表示のユーザビリティ調査 - 認知機能低下と駅内移動行動 の関係の分析 - (著者: 北島宗雄氏、熊田孝恒氏、小木 元氏、赤松幹之氏、田平博嗣氏、山崎 博氏)」であった。
 - ・平成22年大島正光賞について、受賞候補論文の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申した。
- 3)日本人間工学会研究奨励賞について
- ・平成21年度総会において、平成21年研究奨励賞の授与式を行った。受賞論文は、「光学補正を用いた立体映像による眼精疲労の回復効果(著者: 柴田隆史氏、河合隆史氏、李 在麟氏、金 相賢氏、大槻正樹氏、三宅信行氏、葭原義弘氏、岩崎常人氏)」であった。
 - ・平成22年研究奨励賞について、受賞候補論文の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申した。
- 4)日本人間工学会優秀研究発表奨励賞について
- ・第50回大会において平成21年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を選考し、理事会に上申した。また、同賞受賞者5名に賞状を授与するとともに、同賞の運営業務の標準化を図った。
 - ・第51回大会での研究発表者が受賞対象となる平成22年度優秀研究発表奨励賞の広報および選考作業を進めた。
- 5)日本人間工学会功労賞について
- ・第50回大会・総会時に平成21年度(第2回)日本人間工学会功労賞の受賞者22名に対する授与式を行った。また平成22年度(第3回)功労賞の受賞候補者を選考し、理事会に上申するとともに、表彰の準備を進めた。
- 6)国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。また本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動を行うための検討・準備を行った。
- 7)表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関する情報を収集した。
- 8)人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設について検討を進めた(この事業は広報委員会との連携事業である)。
- 9)表彰委員会 HP の開設準備を進めた。

3-6. 日本学術会議担当

{担当: 齊藤 進、青木 和夫}

(1) 日本学術会議の連携の拡充

- 1) 「日本人間工学会公開講座」(2010年3月23日開催)について学術会議の後援を取得した。
- 2) 学術会議から発信される情報は適宜日本人間工学会のHPに掲載し、関連強化に努めた。

(2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムの開催

安全工学シンポジウム2009の幹事学会として2009年7月9日、10日、機械振興会館(東京)にて開催した。

実行委員長: 青木和夫(日本大学) 企画運営委員長: 鳥居塚崇(日本大学)

特別講演「リスクと製品安全」長田 敏(製品評価技術基盤機構)

「市原市のまちづくりにおける安全の取り組みと技術力への期待」佐久間隆義(市原市長)

パネルディスカッション

「安全管理活動におけるヒューマンファクターに関する問題の現状」

オーガナイザ: 岡田有策(慶應義塾大学)

「安全目標」オーガナイザ: 松岡 猛(宇都宮大学)

オーガナイズドセッション 11セッション 60題

一般セッション 10セッション 57題

参加者数 385名

3-7.横断型基幹科学技術研究団体連合担当 {担当:青木 和夫、酒井 一博、加藤 象二郎、斉藤 進}

(1)カンファレンスへの参加

横断型基幹科学技術団体連合第3回カンファレンス(2009年12月3~5日、仙台)及び会長懇談会に参加した。

(2)会誌「横幹」の編集

会誌「横幹」第3巻第1号(ミニ特集「横断型人材育成」)、第2号(ミニ特集「女性研究者の育成」、「2008年度分野横断型科学技術アカデミック・ロードマップ」)の編集を行った(編集委員長:青木和夫)。会誌ホームページの作成と、掲載論文ファイルの公開を行った。

3-8.人間工学専門家認定機構

{機構長:青木 和夫、副機構長:福住 伸一}

(1)会員状況(2010年3月31日現在)

人間工学専門家 160名(H21年度 資格取得者6名、退会者3名)

準専門家 48名(H21年度 資格取得者18名、退会者2名)

人間工学アシスタント 6名(H21年度 資格取得者6名)

(2)資格認定試験実施状況

資格認定試験(A方式試験)を1回実施、受験6名、合格5名であった。また、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回実施、受験2名、合格2名。準専門家に応募18名、書類審査に18名が合格。人間工学アシスタントに応募6名、書類審査に6名が合格。

(3)定期総会・講演会の開催

総会 日時:2009年4月22日(水) 16:00~17:00

会場:中央大学駿河台記念館 610号室

出席者:19名、委任状:79名

講演会 日時:2009年4月22日(水) 14:00~15:50

会場:中央大学駿河台記念館 610号室

講演:松波晴人(大阪ガス株式会社)

演題:「サービスサイエンス 行動観察技術のビジネスへの応用」

鯉部絵理子(ノキア・ジャパン株式会社)

演題:「携帯電話開発と人間工学」

(4)幹事会の開催

第25回:日時 2010年3月31日(水) 15:00~17:30

会場 日本大学理工学部駿河台5号館590会議室

(5)機構長の改選

機構長の改選を行い、青木和夫氏が再選された。

(6)ガイドブック改訂版を発行

改訂したガイドブックを電子化してホームページからダウンロードできるようにした。

(7)再認定の促進

専門家資格の再認定の必要な会員に対して積極的にはたらきかけを行い、再認定申請に必要な条件を満たすための条件を118名がクリアした。

(8)会報作成

会報を4回発行した。

(9)シンポジウム企画

日本人間工学会第51回大会(札幌)におけるシンポジウム「人間工学専門家資格の活用と課題」の企画を行った。

[臨時委員会・担当]

3-9. ニーズ対応型人間工学展開委員会

{委員長：榎原 毅}

学会法人化を契機とし、一層の社会的責任を果たすべく、Web サイト等を積極的に活用した人間工学の普及策と情報発信戦略を検討・展開した。主な活動は下記の通り。

(1)組織体制

同委員会内に、次の企画実現型タスクフォース（ワーキング・グループ：WG）を設定した。

- 1)若手人材支援 WG（リーダー：松田文子）： 学会による、積極的な若手人材の育成・キャリア支援策を検討
- 2)産学官民（GIAP）協同推進 WG（リーダー：大内啓子）：産学官民各セクターの連携・交流支援と企業内人間工学実務者のエンカレッジ策を検討
- 3)学術 WG（リーダー：岩切一幸）： 学術側面からの人間工学研究の活性化策の検討
- 4)ニーズ調査 WG（リーダー：下村義弘）： 産学官民各セクターにおける人間工学ニーズ調査の実施
- 5)人間中心設計(HCD)WG（リーダー：榎原毅）： 広報委員会との連携事業として、HCD に基づく学会 web リニューアルの実施

(2)委員会開催状況

2 回の全体委員会の開催(2009/7/6,2010/3/22) 計 8 回の各 WG ミーティング(2009/09/03:学術 WG、2009/10/07:WG リーダー会議、2009/10/13:ニーズ調査 WG、2009/10/18:GIAP-WG、2009/12/06:WG リーダー会議、2010/01/13:GIAP-WG、2010/01/21:HCD-WG、2010/01/25:GIAP-WG)のほか、随時電子メールでの討議を行った。

(3) 主な活動内容

*1: 広報委員会との連携事業、 *2: 文科省科研費担当との連携事業
*3: 国際協力委員会との連携事業、 *4: 総務担当との連携事業
(: 実施済、 : 進行中、 - : 企画検討中)

カテゴリ	主担当 WG	活動内容	達成度 / HCD-WG による web 実装
1)人間工学ニーズの把握	ニーズ調査 WG	人間工学ニーズ調査の実施 (学会 web サイト上でオンライン・調査を実施：2009 年 11 月 10 日(火)～12 月 25 日(金))	
	HCD-WG	JES/web サイトのアクセス解析*1 (サンプリング期間：2009/1/1～12/31)	
	ニーズ調査 WG 学術 WG	科研費補助金への応募実績や分科細目表に関する Web アンケートへの協力*2	
	若手人材支援 WG	「人間工学に関する疑問・質問」情報の収集と提供 (インターネット上で検索されている人間工学関連の質問・疑問情報を解析、学会 web サイト上でそのニーズに回答)	-
2)人間工学応用の社会への発信	GIAP-WG	産学官民各セクターの人間工学専門家インタビュー・コンテンツを学会 web サイト内に提供 (学会 HP 内にて、GIAP 各セクターで活躍している人を紹介)	2010/6 web 実装予定
	GIAP-WG	人間工学グッドプラクティス・データベース(GPDB)への「工芸部門」の設置*1 (伝統の匠の技と人間工学のつながりを紹介、地域産業・伝	2010/6 web 実装予定

		統工芸の活性化支援と人間工学の普及促進)	
3)産学官民の協同・連携支援	委員会全体	人間工学の領域・人材・組織・事例を繋ぐリレーショナル・データベースの提供 (人間工学領域から学べる大学リストを検索、企業情報から人間工学応用領域を検索など、GIAP 各セクターの横断的・有機的ネットワーク構築を支援する仕組みを web 上に提供)	-
4)人間工学研究の促進/交流と活性化策	学術 WG	人間工学研究支援窓口の提供 (学会 web サイト内(会員向けサービス)に、人間工学研究 Tips 集(秘訣集)や人間工学領域で用いられる統計手法・実験計画法などを紹介。また、論文投稿にチャレンジする若手人材・企業実務者をサポートする相談窓口の運用など)	-
5)人間工学会の魅力発信	学術 WG	各支部大会講演集(抄録)の PDF 公開 (各支部講演集は一般刊行物申請されておらず、アクセスするチャンネルがなく、貴重な知見を利用できない。支部抄録 PDF 版を JESweb サイト内にて一元提供するプラットフォームを提供)	2010/8 順次 web 実装 予定
	委員会全体	広報特派員による人間工学関連イベント報告の掲載*1 (全国で開催されている人間工学関連イベントを広報特派員が取材、記事を投稿してもらい、人間工学の魅力を学会 web 上から発信)	
	HCD-WG 学術 WG	学会メインシンポジウム等のビデオ映像の配信*1 (全国大会におけるメインシンポジウムや公開講座などを録画し、web 上(会員サービス)から映像配信)	
6)若手・次世代人間工学人材の育成支援	若手人材支援 WG	人間工学キャリア・ビジョンの提供(企業の若手人間工学人材・大学生・院生支援 web コンテンツの整備) (人間工学のキャリア・ビジョンの提供、企業が求める人間工学能力・人材に関する情報の提供など)	2010/8 web 実装予定
	若手人材支援 WG	小中高生を対象とした出前授業・公開講座 (出前授業協力者のデータベース整備、中高生向け教育コンテンツの整備) ・都内私立中学校でのトライアル出前授業実施(「くらしの中の身近な人間工学 人にやさしい環境づくり」、講師:水野有希)	H22 継続 実施
7)国際社会への情報発信	HCD-WG	学会 web サイト英語版の充実と提供*1、*3 (日本人間工学会のリニューアル web サイトの英語版制作、GPDB 英語版の発信)	2010/8 web 実装予定
8)学会 web サイト・リニューアル	HCD-WG	人間中心設計に基づく学会 web サイト・リニューアルの実施*1 (人間中心設計プロセスに基づく web サイトリニューアルを、1 st stage : 2010/4 末、2 nd stage : 2010/6 末、3 rd stage : 2010/8 末の 3 期に分け、評価を繰り返しながら順次コンテンツを実	1 st stage 完了

		装)	
HCD-WG		人間中心設計に基づく実践事例の紹介 (学会 web サイト・リニューアルを題材とした、人間工学設計の実践例を学会 web 上にて提供)	2010/8 web 実装予定
HCD-WG		迅速な web 情報発信と効率的な web 更新システムの構築*1 (過去の更新情報の分析に基づく、発信情報の体系化と更新用ツールの整備)	1st stage 完了
HCD-WG		サイト・ポリシーの作成*1 (日本人間工学会 web サイト利用の免責事項、著作権、SSL などのポリシーを整備)	
HCD-WG		支部・部会用のサーバー領域提供*1 (JES サーバー内に、各支部・部会ホームページをアップロードできる領域を提供)	2010/6 web 実装予定
HCD-WG		オンライン・入会申込システムの構築*1、4 (既存の紙ベースによる入会申し込みに加え、簡便に web サイト上からも入会手続きを行えるエントリー・フォームを提供)	
HCD-WG		公式文書フォーマットの作成*1 (web 上で公開する公式文書フォーマットのデザインおよびテンプレートの作成)	

3-10. 安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁}

- (1)2009年12月6日に武蔵野大学で第一回安全人間工学委員会を開催した。委員は青木和夫,小松原明哲,首藤由紀,芳賀繁の4名。その後,2010年1月13日と3月13日に立教大学で第2回,第3回の委員会を開催した。
- (2)委員会では安全人間工学委員会の活動方針,活動方法,活動内容などが話し合われ,以下の事柄を決定した。
 - 1)安全人間工学委員会は安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動のかじ取り役となる。すなわち,研究会,シンポジウム,ホームページ,出版,提言など,どのような活動をどのような形で進めるかを決め,それぞれの推進メンバーを指名する。
 - 2)他学会における安全関係(ヒューマンファクターに限定)の部会,委員会のリストを作成し,安全人間工学委員会のHPにアップする。可能なら代表者,幹事等に連絡をとって,安全人間工学委員会HPにイベントの案内を掲載するよう働きかける。
 - 3)安全人間工学研究部会を立ち上げる。(4月に発足することが理事会で承認された)安全人間工学部会は隔月で研究会を開催する。研究部会事務局のメールアドレスを jes_anzenn@e-riss.co.jp とし,参加希望者からこのアドレスにメールを送ってもらい,メーリングリストを作る。
 - 4)日本人間工学会第51回大会におけるシンポジウムを企画した。タイトルは「安全人間工学再興」とし,首藤・小松原・芳賀が講演とパネルディスカッションを行う。企画・司会は青木。首藤は日本人間工学会における安全に関わる研究,実践活動の歴史を振り返り,小松原と芳賀は今,安全のために人間工学が何を求められているのか,何をすべきなのかについて考えを述べる。
- (3)その他,若手(次世代の安全人間工学中心メンバー)の活用・育成策,本の編集,HPの製作などについても議論した。

3-11. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

{委員長:酒井 一博}

(1)委員会の開催

3回の委員会を開催し、活動方針、企業の人間工学教育の実践計画、人間工学教育方法に関する意見交換を行った。

(2)教育実践のための具体案を立案

前年度委員会「企業の人材育成プログラム開発委員会」で作成したプログラムを見直した。

(3)中小企業を対象とした企業の人間工学教育の実践

静岡工業技術研究所が事務局を務める「静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会」と共催で、ニーズ対応型人間工学展開委員会 GIAP ワーキンググループの協力のもと、地元の中小企業の方を主な対象として、「わが社の製品に人間工学を活かそう!」と題した、人間工学教育を実践した。

第1回目(講演会)

日時: 2010年1月13日(水) 13:30~16:45

場所: 静岡市産学交流センター ペガサート7F 演習室4

講師: 酒井一博(財団法人 労働科学研究所) 八木佳子(株式会社イトーキ)

第2回目(ワークショップ)

日時: 2010年1月25日(水) 13:30~17:00

会場: 静岡県工業技術研究所 1階 講堂

コーディネーター: 榎原毅(名古屋市立大学) 松田文子(財団法人 労働科学研究所)

(4)情報機器メーカーの設計技術者を対象とした人間工学教育の実践

理事会主催の公開講座に協力して、以下のような教育事業のコーディネートを行った。

テーマ:「日本のテレビは何故北を向く?-ホームリビングと人間工学の新機軸-」

日時: 2010年3月23日(火) 12:30~18:00

場所: 成蹊大学10号館12階ホール

講師: 窪田悟(成蹊大学 理工学部) 吉武良治(日本アイ・ビー・エム株式会社)

なお、本公開講座の実施に当たっては、総務・財務、および広報委員会と協力して行った。

3-12. テレワークガイド委員会

{委員長:吉武 良治}

(1)委員会開催

4回の会議(6月、8月、12月、3月開催)を開催し、随時Eメールによる審議を実施。

(2)活動内容

本委員会発足時に掲げた以下の2つのテーマについて主に審議し、活動を行った。

1)テレワーク関連の情報収集と課題審議

テレワークでは人間工学的に配慮すべき課題やテーマが存在するが、その全体像を把握するために、関連する情報収集を実施し、委員会メンバーにて審議、整理、共有した。主に府省の取組、学会・協会の取組などをまとめ、報告書としてそれらの概要をまとめた。

2)「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」の見直し

テレワークではIT機器、モバイル機器の活用が重要であることから、1998年に本学会にて策定した「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」の見直しを実施した。人間工学のガイドラインであることから大きな変更はないが、過去約10年でIT機器の進化やモバイル環境、ネットワーク環境が大きく変化したため、主にそれらを考慮した修正を加えた。掲載していた写真の多くも撮影しなおし、2010年版として公表した。

(3)成果・報告書

1)テレワークガイド委員会の平成21年度活動の報告書を作成し、ホームページにて公開

- 2) 「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」(2010年版)を作成し、1998年版とともにホームページにて公開

3-13. 人間工学技術戦略委員会

{委員長:藤田 祐志}

- (1)技術戦略ロードマップの活用について学会活動への展開に重点をおいて検討を行なった。様々な活用が考えられるが、提言をまとめるためには引き続き検討と議論を要する。
- (2)子どもと人間工学に関心のある学会員等を募り、25名の分科会委員からなる子どもの人間工学分科会(小松原明哲主査)を設け、生活者としての子どもと人間工学との関係性を検討し、あるべき方策を探った。分科会では、日用品・製品安全、保育・教育、遊び場設計・遊具安全、防犯の4つのワーキンググループ(WG)を設置し、各WG座長もとでメールによる意見交換及びオフ会を随時開催した。子ども研究等を行っている諸団体のWebサイトのリンク集からなる分科会Webサイトを設置した。さらに第51回大会において、シンポジウム「子どものために人間工学が出来ること」を開催し、この領域に関する討議を行う。

3-14 .人間工学研究ガイドライン検討委員会

{委員長:横井 孝志}

- (1)活動目的:日本人間工学会の中に本委員会を設置し、被験者を用いた人間工学研究のための標準的かつ実践的な倫理指針を策定する。
- (2)委員会委員:青木和夫(日本大学)、石橋基範(マツダ(株))、近藤良享(筑波大学)、鈴木浩明(鉄道総研)、鈴木慎也(産総研)、瀬尾明彦(首都大学東京)、富田 豊(慶応大学)、畠中順子(人間生活工学研究センター)、横井孝志(産総研)
- (3)活動概要:本検討委員会において「人間工学研究のための倫理指針(案)」を作成した。この指針案は2009年11月13日の日本人間工学会理事会において承認された(指針施行日:2009年11月13日)。これを受け、2009年11月16日に学会ホームページに掲載し、本指針を一般公開した。指針が公開されたことをもって人間工学研究ガイドライン検討委員会の当初の目的を達成したため、2009年11月27日付で本検討委員会を解散した。

3-15. 選挙管理委員会

{委員長:八田 一利}

(1)委員会日程

第2期(平成22~23年度)の代議員および役員選挙を以下の日程で実施した。

- ・平成21年10月7日(火)第1回委員会(通信)
選挙規程確認、有権者および代議員定員数を確認
- ・平成21年10月24日(土)第2回委員会
代議員選挙投票用紙を発送
- ・平成21年11月30日(土)第3回委員会
代議員選挙の開票を行い、代議員当選者へ就任諾否確認書を発送
- ・平成21年12月21日(月)第4回委員会
代議員内定者180名を確認、理事・監事選挙投票用紙を発送
- ・平成22年1月30日(土)第5回委員会
理事・監事選挙の開票、理事・監事当選者へ就任諾否確認書を発送
- ・平成22年2月15日(月)第6回委員会
理事・監事内定者を確認、理事長・副理事長選挙投票用紙を発送
- ・平成22年3月5日(金)第7回委員会
理事長・副理事長選挙の開票、理事長・副理事長当選者へ就任諾否確認書を発送
- ・平成22年3月12日(金)第8回委員会(通信委員会)

理事長・副理事長内定者を確認

・平成22年3月23日(火)第4回理事会にて第2期選挙結果を報告

(2)選挙結果

第2期代議員および役員選挙結果は、本社員総会資料(末頁参照)・第2期代議員および役員選挙報告(案)に掲載するとおりである。

代議員選挙、理事・監事選挙、理事長・副理事長選挙における投票状況は以下のとおりであった。

1)代議員選挙の投票状況

支部	正会員数	代議員定数	投票数	投票率(%)
北海道	51	6	22	43.1
東北	60	7	16	26.7
関東	989	99	171	17.8
東海	149	16	59	39.6
関西	291	30	46	15.8
中国・四国	116	13	34	29.3
九州	81	9	19	23.5
総数	1,737	180	367	21.1

無効票 3

2)理事・監事選挙の投票状況

理事定数	代議員数	投票数	投票率(%)
20	180	131	72.8

無効票 1

監事定数	代議員数	投票数	投票率(%)
2	180	131	72.8

無効票 1

3)理事長・副理事長の投票状況

理事長定数	理事・支部長	投票数	投票率(%)
1	26	24	92.3

無効数 0

副理事長定数	理事・支部長	投票数	投票率(%)
1	26	24	92.3

無効数 0

(3)選挙結果のホームページ掲載について

第2期選挙結果(内定者リストと定員、投票率などの投票状況)を本学会ホームページの選挙管理委員会のページに掲載する。なお、票数は会員以外も見ることに配慮し掲載しない。

3-16.文科省科研費担当

{担当:齊藤 進、青木 和夫}

「人間工学」は、文部科学省科学研究費補助金の系・分野・分科・細目表(平成19年1月改正)において、生物学及び医歯薬学分野のキーワードとして記載されている。本来、人間工学が果たすべき社会的・学術的役割の重要性を鑑み、平成22年度に検討を開始する予定の細目表見直しへ向け、学会が文科省に対し組織的に働

きかけることとした。

- (1)文科省研究振興局担当官及び日本学術振興会（JSPS）等から得た情報をもとに、理事会で科研費の系・分野・分科・細目表見直しと人間工学採択へ向けた方策を検討した。
- (2)平成23年度公募において設定する「時限付き分科細目」の新分野候補として「人間工学」を採択するよう、平成21年10月末に、わが国の大学等における人間工学会教育と研究の現状を取りまとめた資料とともに要望書をJSPSへ提出した。
- (3)平成22年度科研費補助金への応募実績や分科細目表に関する要望等につき、ニーズ対応型人間工学展開委員と協力しWebアンケートを実施するとともに、概要をホームページで公開した。

3-17. 日本人間工学会第50回記念大会

{担当:横井 孝志}

2009年6月10日(水) 11日(木) 12日(金)に産業技術総合研究所つくば中央を会場として、H21年度の日本人間工学会第50回記念大会(大会長:赤松幹之(産業技術総合研究所))を開催した。

開催期間を平日の3日間とした今回の大会では、学会主催シンポジウム「人間工学の歴史と未来」、特別講演1「構成学としての人間工学に期待すること」、特別講演2「有人宇宙開発 - 国際宇宙ステーション開発余話」に加え、一般シンポジウム8件、オーガナイズドセッション6件、一般演題180件、人間工学活用事例展示8件、さらに特別企画として人間工学歴史写真の展示を設けた。また、約20年ぶりのつくばでの開催ということ意識し、大会最終日には産業技術総合研究所と宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センターの見学会を用意した。学会員、協賛会員、賛助会員、理事、実行委員の皆様のご支援、ご協力により、全国から約600名の方々に参加いただいた第50回記念大会を無事終了することができた。大会スタッフ一同心より御礼申し上げます。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

(1) 会議

- 1)支部役員会 平成21年7月24日(金)北海道大学工学部
 - ・平成20年度 支部事業報告
 - ・平成20年度 決算報告並びに監査報告
 - ・平成21年度 予算案
 - ・平成21年度 支部事業計画案
 - ・支部役員選挙について
 - ・平成22年度 日本人間工学会第51回大会(6月19日~20日)開催について

(2)平成21年度支部大会および総会

大会長:細川敏幸(北海道大学高等教育機能開発センター教授)

日時:平成21年11月14日(土)

場所:北海道大学情報教育館

1)支部大会

- ・一般演題
 - 1.地家崇則(北海道大学)ほか:簡易局所耐寒性測定システムの開発
 - 2.布川祐理也(北海道大学)ほか:汎用ソフトウェアを用いた人工閉鎖系生命維持システムのシミュレーション法の検討
 - 3.大石純(北海道大学)ほか:人体三次元形状計測システムの改良とその応用
 - 4.斎藤健(北海道大学)ほか:病院内の騒音対策 ワゴン通過時の騒音レベルの変動解析とその抑制対策

- ・特別講演
青木和夫（日本大学・日本人間工学会副理事長）：医療の安全と人間工学
- ・懇親会（会費制）：レストラン自由人舎「時館」北大店
- 2) 支部総会議題
 - ・平成20年度支部事業報告
 - ・平成20年度決算報告並びに監査報告
 - ・平成21年度予算案
 - ・平成21年度支部事業計画
 - ・支部役員選挙について
 - ・平成22年度日本人間工学会第51回大会（6月19日～20日）開催について

4-2. 東北支部

{ 支部長: 北村 正晴 }

(1) 支部研究会

「ヒューマンエラー研究の展開と人間工学」

- 1) 開催日時：平成21年12月19日(土)13:30～17:00
- 2) 場 所：東北大学工学研究科総合研究棟 306号室
- 3) 話題提供：講師 宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科 大橋智樹氏
- 4) コメント：講師 東海大学法学部法律学科 池田良彦氏
 題目 法律の視点から「刑事過失責任が問われる根拠」
 コメント：講師 日本ヒューマンファクター研究所 石橋 明氏
 題目 航空実務の視点から「ヒューマンエラーは裁けるか」
 コメント：講師 東北公益大学公益学部公益学科 神田直弥氏
 題目 安全人間工学の視点から

（参加者29名）

【これらの研究会講演内容は文字起こし結果を文書化しており、支部HPで閲覧可能である】

(2) 支部役員会

1) 第1回支部役員会

- ・開催日時：平成21年7月29日(水)17:30～22:10
- ・場 所：ホテルメトロポリタン仙台 会議室
- ・議 題： 支部規約の確認と整理
 支部役員人事計画(メンバーの増強、選挙規則他)
 支部主催研究会、講演会の企画
 他学協会との連携(横幹連合他)
 HPへの情報提示方策と分担、
 その他

2) 第2回支部役員会

- ・開催日時：平成22年3月10日(水)17:00～19:00
- ・場 所：東北大学未来科学技術共同研究センター 小会議室
- ・議 題： 支部役員選挙の件
 支部会員の増加と活動活性化
 次年度への申し送り事項

【なおこの間、多数回のメール討論を実施して支部役員間での認識共有、業務分担を図っている。】

4-3. 関東支部

{支部長:堀江 良典}

(1) 臨時総会

- ・開催日:平成21年6月11日(土)
- ・会場:日本人間工学会第50回大会E会場
- ・議題:支部規約改訂

(2) 第39回関東支部大会

- ・開催日:平成21年12月5日(土)~6日(日)
- ・会場:武蔵野大学西東京キャンパス
- ・大会長:宇賀神 博 先生
- ・企画セッション:6件 一般演題:66題

(3) 支部委員会

開催日:平成21年12月5日(土) 会場:武蔵野大学西東京キャンパス

(4) 支部総会

開催日:平成21年12月5日(土) 会場:武蔵野大学西東京キャンパス

(5) 卒業研究発表会

開催日:平成21年12月5日(土) 会場:武蔵野大学西東京キャンパス 演題数:36題

(6) 見学会

開催日:平成22年3月10日 会場:(株)日本航空安全啓発センタ - 参加者:40名

(7) ニュースレターの発行:見学会案内(2月)

(8) 支部役員選挙

次期支部長として八田一利先生(千葉工業大学)、支部委員40名が選出された。

4-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

(1) 平成21年度日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時:平成22年3月13日(土)15:45~16:15
- ・場所:名古屋ガーデンパレス「竹」
- ・懇親会:17:45~19:45 名古屋ガーデンパレス「松」
 - ・東海支部規約制定について、
 - ・東海支部新役員等について

(2) 講演会の開催

- ・開催日時:平成22年3月13日(土)16:30~17:30
- ・場所:名古屋ガーデンパレス「竹」
- ・講演:アイシン精機株式会社 上西園武良 氏
- ・演題:感覚機能に対する設計解の探索
生活機器の開発効率向上のための設計手法の提案

(3) 平成21年度日本人間工学会東海支部研究大会報告

- ・開催日時:平成21年10月10日(土) 10:00~20:00
- ・開催場所:金城学院大学
- ・大会長・実行委員長:片瀬真由美 金城学院大学教授
- ・発表演題数:特別講演1件、学生支援特別企画「企業との架け橋 - 東海支部プログラム」 - 、一般演題:33件
- ・参加者:109名
- ・懇親会参加者:42名

(4) 平成21年度支部研究助成

横山清子ほか2名(名古屋市立大学)

森島美佳(岐阜市立女子短期大学)

(5)役員会開催(4回開催)

(1) 第1回役員会 平成21年7月3日(月) 名城大学名駅サテライト

(2) 第2回役員会 平成21年10月9日(金) 金城学院大学

(3) 第3回役員会 平成21年12月11日(金) 名城大学名駅サテライト

(4) 第4回役員会 平成22年3月13日(土) 名古屋ガーデンパレス

メール審議平成21年5月

” 平成21年7月

” 平成22年1月

(6)東海支部規約制定(平成22年度-平成23年度支部役員改選時期変更について)

4-5. 関西支部

{支部長:萩原 啓}

(1)企画・行事等

1)見学会&講話会「人と防災未来センター」(神戸市)

開催日:平成21年10月30日(金)

センター見学

震災語り部による講話

参加者25名

2)支部大会

開催日:平成21年12月5日(土)

会場:奈良女子大学

大会長:大会長:磯田憲生先生 事務局長:久保博子先生

特別講演:「住まいの快適環境」磯田憲生先生

企画セッション:「観察工学とサービス工学の考え方と事例」

アーゴデザイン部会シンポジウム:「製品・サービス開発を目的としたロードマップ策定の試み」

一般演題:計60件

懇親会

参加者165名

3)春季講演会

共催:立命館大学総合理工学研究機構 スポーツ・健康産業研究センター

後援:国立大学法人滋賀医科大学

開催日:平成22年3月26日(金)

会場:立命館大学びわこ・くさつキャンパス

プログラム

開会挨拶:支部長 萩原 啓

講演1 健康・医療分野における民・産・官・学連携による地域イノベーション

立命館大学 理工学部・ロボティクス学科・教授 牧川 方昭

滋賀県びわこ南部エリアに育った新しい健康・医療技術を中心にびわこ南部における産学連携の現状、今後の立命館大学のマイクロ・ロボティクス技術などの最先端工学技術を中心とした健康・医療のパラダイムシフトの構想について講演。

講演2 研究事例:高齢者転倒事故防止のための歩行能力評価システムと亀岡市における応用事例の紹介

立命館大学 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学科・准教授 塩澤 成広 平成22年4月就任予定

携帯型運動モニタ装置を用いた歩行能力評価システムとWHOセーフコミュニティの認証を受けた京

都府亀岡市における本システムの応用事例について、また今後取り組む関連の研究テーマについて講演。
ポスター内容紹介：最新の研究成果を紹介。

ポスターセッション：幅広いテーマでのポスターを展示し、各ポスター前にて詳細な説明をおこない、質疑応答などを受付。

閉会挨拶：支部長 萩原 啓

交流会

参加者 104 名

4) 協賛

日本色彩学会関西支部

・平成 21 年度関西支部大会 2010.2/20 京都工芸繊維大学

<特別講演> 「色覚研究とその応用」 篠田博之氏（立命館大学情報理工学部知能情報学科 教授）

・特別セミナー in 九州 2010.3/6 福岡工業大学

テーマ：「見せる色彩」

パネルディスカッション「ECO 時代をリードするクルマのカラーデザイン」

・平成 21 年度色彩基礎セミナー & シンポジウム 2010.3/26-27 京都府立大学

第 14 回色彩基礎セミナー（3 月 26 日）テーマ：「視覚情報とおいしさ」

第 12 回カラーコーディネーターシンポジウム（3 月 27 日）

テーマ：「京の色 無彩色・有彩色」

4-6. 中国・四国支部

{支部長:大塚 彰}

(1) 理事会開催（3 回）

第 1 回：2009 年 6 月 8 日，場所：県立広島大学保健福祉学部

第 2 回：2009 年 11 月 28 日，場所：岡山大学工学部

第 3 回：2010 年 2 月 19 日，場所：県立広島大学保健福祉学部

(2) 第 42 回日本人間工学会中国・四国支部大会を開催

開催日：2009 年 11 月 28 日，場所：岡山大学工学部

大会長：村田 厚生 先生（岡山大学）

大会参加人数：142 名

予稿集広告掲載企業数：2 社

予稿集印刷数：400 部（残部数：60）

(3) 支部講演会開催（1 回）

開催日：2009 年 11 月 28 日，場所：岡山大学工学部

演題：「投影型複合現実感」

講師：佐藤 宏介 先生（大阪大学大学院基礎工学研究科 教授）

(4) 役員選挙（名簿は別紙参照）と事務局交代

24 名から理事就任の承諾を得た。

次期支部長として、村田 厚生 先生（岡山大学）の推薦があり、承認された。

同時に支部会事務局は、県立広島大学保健福祉学部から岡山大学工学部に変更となる。

(5) 2009 年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員 { 大塚彰氏（支部長），横山詔常氏（広島県立総合技術研究所），田中聡氏（県立広島大学） } による厳正なる審査を行った。まず、各セッションの座長に優秀論文の推薦を依頼し、推薦された 7 編を対象にして、上記 3 委員による絶対評価を行った。総得点にて 2 編に絞られ、委員長判定（大塚氏）の結果、2 編（下記）が優秀論文賞候補として採択された。

優秀論文賞論文：

講演番号 111 「動揺病の数値モデルを用いたドライバの頭部運動の解析」

今泉克哉, 藤澤智, 上地徳昌, 和田隆広, 土居俊一 (香川大学)

講演番号 210 「簡易ハプティックレコーダの力学的相互作用計測におけるアームの操作性への影響評価」

横山泰典¹, 大西謙吾², 永田和之³ (1: 岡山県立大学大学院, 2: 岡山県立大学, 3: 産業技術総合研究所)

4-7.九州・沖縄支部

{ 支部長: 長谷川 徹也 }

(1) 第 30 回支部評議員会

- 1) 月 日: 平成 21 年 12 月 12 日
- 2) 会 場: 北九州国際会議場 (小倉)
- 3) 議 題: 平成 21 年度活動報告と決算
 - ・平成 22 年度活動計画と予算案
 - ・平成 22 年度第 31 回大会について
 - ・その他

(2) 第 30 回支部総会

- 1) 月 日: 平成 21 年 12 月 12 日
- 2) 会 場: 北九州国際会議場 (小倉)
- 3) 議 題: 平成 21 年度活動報告と決算
 - ・平成 22 年度活動計画と予算案
 - ・平成 22 年度第 31 回大会について
 - ・その他

(3) 第 30 回九州・沖縄支部大会

- 1) 月 日: 平成 21 年 12 月 12 日
(人類動態学会西日本地方会第 35 回大会との共催)
- 2) 会 場: 北九州国際会議場 (小倉)
- 3) 大会長: 和田 親宗 (九州工業大学)
- 4) 研究発表: 15 演題
特別講演「極限環境を生きる」田川善彦 先生 (九州工業大学)
- 5) 「九州支部第 30 回大会講演集(九州人間工学 第 30 号)」の作成
- (4) 「九州人間工学 第 30 号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 医療安全研究部会

{ 部会長: 土屋 文人 }

(1) 活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

(2) 活動内容及び成果

本年度は平成 22 年 3 月に横幹連合医薬品インターフェース調査研究会との合同で前年度同様の「製薬企業のための人間工学入門」講習会を開催する予定であったが、諸般の事情により開催することができなかった。製薬企業に対する人間工学分野での研究の必要性については昨年度作成した医薬品分野における人間工学的研究

の論文や大会要旨をまとめた冊子「医薬品の使用の安全に関する資料集」を配布するとともに、啓発活動を行った。

5-2. 衣服人間工学部会

{ 部会長: 間壁 治子 }

(1) 活動目的

当部会は、平成14年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきた。21年度は、昨年度に引き続き「衣生活の近い未来を考える」をテーマに、若手人材の育成を念頭に置き、参加型での勉強会や見学会などを企画し活動することを目的とした。

(2) 活動内容

平成21年度は、役員会を2回、例会3回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

1) 第1回役員会

開催日：平成21年6月27日

場 所：共立女子大学

2) 第1回例会

開催日：平成21年6月27日

場 所：共立女子大学

演 題：「衣服圧の測定と活用事例」

「ニットの基本 ～初心者のために～」

講演者：東京都立産業技術研究センター 上席研究員 岩崎謙次氏

参加者：部会長以下25名

3) 第2回役員会

開催日：平成21年10月3日

場 所：共立女子大学

4) 第2回例会

開催日：平成21年10月3日

場 所：共立女子大学

演 題：「快適な靴の選び方」

講演者：足と靴と健康協議会 事務局長 俣野好弘氏

参加者：部会長以下90名

5) 第3回例会（見学会）

開催日：平成22年3月3日～4日

場 所：山形方面

内 容：1日目 オリエンタルカーペット(株) 佐藤繊維(株)

2日目 (株)新田

参加者：部会長以下16名

(3) 成果

- ・第1回例会では、女性の高齢者用衣服の設計にあたり、アンケート調査および衣服圧測定装置を使って、着用しやすさについてご講演いただいた。またニットの基本についても解説していただいた。基本的な内容を確認する良い機会となった。
- ・第2回例会では靴の選び方についてご説明いただいた。シューフィッターとしての経験も踏まえてわかりやすい内容だった。足部の計測方法など実演もしていただき、学生も聴講したが、日常的なことで興味深い内容であったため熱心に聴いていた。
- ・第3回例会は山形県への見学会であった。今話題の繊維産業や紅花染め・米沢紬の工房の見学を行った。それぞ

れの工場や工房で丁寧な仕事振りを見ることができた。やはり実際に見て学ぶことの必要性を再確認でした。

(4)問題点

- ・以前より問題点として挙げているが、産学共同で、より衣服人間工学発展のため、さらに議論・検討を進める必要がある。
- ・若手人材の育成も急務と考える。

(5)展望

- ・今年度の例会、見学会では学生の参加も多く、熱心に見聞していたように見受けられた。現場を見るチャンスがほとんどない学生にこのようなチャンスをたくさん与え、衣服作りにおける人間工学の知識の必要性を伝えていくことは大切と思われた。

5-3. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長:山本 栄 }

(1)HCI INTERNATIONAL 2009, San Diego, CA, USA, July 19-24, 2009

でオーガナイズドセッション “Development of Tactile & Haptic Interaction” を組んで6件の研究発表を行った。

詳細は以下のとおりである。

- 1)発表題目 : A Study on Fundamental Information Transmission Characteristics of an Air-Jet Driven Tactile Display
発表者 : Takafumi Asao, Hiroaki Hayashi, Masayoshi Hayashi, Kentaro Kotani, and Ken Horii1
- 2)発表題目 : Representation of Velocity Information by Using Tactile Apparent Motion
発表者 : Kentaro Kotani, Toru Yu, Takafumi Asao, and Ken Horii1
- 3)発表題目 : Experimental Study about Effect of Thermal Information Presentation to Mouse
発表者 : Shigeyoshi Iizuka and Sakae Yamamoto
- 4)発表題目 : Tactile Spatial Cognition by the Palm
発表者 : Misa Grace Kwok
- 5)発表題目 : Overview of Meta-analyses Investigating Vibrotactile versus Visual Display Options
発表者 : Linda R. Elliott, Michael D. Coovert, and Elizabeth S. Redden
- 6)発表題目 : A Study on effective tactile feeling with control panels for electrical appliances
発表者 : Miwa Nakanishi Yusaku Okada and Sakae Yamamoto

(2)日本人間工学会 触覚インタラクション研究部会主催 第一回 触覚インタラクション研究会開催

詳細は以下のとおり

日時 : 平成22年3月24日11時から17時まで

場所 : 東京理科大学森戸記念会館小会議室

参加者11名

海外での研究発表と同時に国内でも当研究会主催での研究会を行った。

本研究会は通常の研究発表と違い、研究の完成の有無ではなく、完成した研究では着眼点を中心に、また未完成の研究は方向性や位置づけ等を発表するようにし、参加者が必ず一言コメントを述べることを目標にした。実際は一言以上あり、活発な議論があり、7時間でも足りないくらいであった。

その他運営委員会を3回開催した。

5-4. 航空人間工学部会

{ 部会長:垣本 由紀子 }

(1)目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化

本年度は、航空における疲労とその評価法について検討する。

(2)方法

1)例会

第91回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催した。

例会には、93名が参加し活発な議論が行われた。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

・第91回例会

日 時：平成21年7月2日(木) 10:45 - 16:45

場 所：オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）

テーマ：航空分野における疲労に関する研究

講 演：

1. 航空保安業務における安全管理システム

国土交通省大臣官房参事官 ごとう ひるのり 後藤 容順氏

2. 体感的疲労リスクの定量マネジメント」

Air Trick, Inc. あさひ ひろあき 旭 広明氏

3. 航空医学実験隊における疲労調査

航空医学実験隊 かなざわ ふみこ 金澤 富美子氏

4. 発話音声から発話者の作業信頼性を評価するために

独立行政法人 電子航法研究所 しおみ かくいち 塩見 格一氏

2)施設見学会

見学場所：全日空 安全教育センター（ASEC）

実施日：平成22年2月18日（木）、19日（金）15:00-17:00

総計44名（18日16名、19日28名）の参加*があった。

*施設の制約等により50名の定員（各回25名）で案内。

3)委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

・第49回委員会

日 時：平成21年10月23日（金） 15:00 - 16:30

場 所：(財)航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議 題：

(1)第91回例会報告について

(2)平成21年度上期会計報告（案）について

(3)本年度下期の活動（案）について

(4)来年度の活動（案）について

・次期幹事会社の確認

・第92回 例会日程、会場について

・第92回 例会テーマについて

(5)その他

・日本人間工学会航空人間工学部会ホームページの移行について

・第50回委員会

日 時：平成22年3月26日（金） 15:30 - 17:00

場 所：全日空会議室

議 題：

- (1)平成 21 年度会計報告（案）について
- (2)平成 21 年度活動報告（案）について
- (3)平成 22 年度活動計画（案）について
- (4)次回例会（第 92 回）テーマについて

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成 21 年度は幹事会を 3 回開催した。

4)ホームページの運営

7/1 に新サイトに移設を完了した。変更に伴い、コンテンツの充実、見易さを向上させたインターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。

また、例会申し込みをホームページから行えるようにしたことで会員の利便性を高めた。

ホームページには過去 1 年間に開催された例会の講演内容を掲載し、例会に出席できなかった会員に対する支援等を行った。例会等の申し込みについてはホームページから申し込みを行う割合が増えており、今後もさらなる活用が見受けられたことから内容の一層の充実を図る。

5)例会資料の電子ファイル化の継続

第 91 回例会（2009 年 7 月開催）資料を CD-ROM に記録し、これを継続して財団法人日本航空協会の運営する航空図書館に寄贈*した。

*講演者の承諾が全て得られた。

(3)成果及び展望

疲労問題は、古くて新しいテーマである。最近、航空界では疲労マネジメントとして関心度が極めて高い。今回の例会テーマである最新の疲労評価法とその適用や問題点は、参加者の興味を大きく引くところであり、それぞれの職場での疲労対策へ大きく貢献したとものと推測された。

次年度のテーマ設定については、航空を取り巻く最近の動向を踏まえつつ、会員の興味を引く設定とし、活動を継続・展開することにより、より充実化を図り、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できるものとする。

5-5.アーゴデザイン部会

{ 部会長:上田 義弘 }

(1)活動テーマ:

「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン - 新たな方法論・ロードマップの構築・運用を目指して - 」

(2)部会運営と主な活動内容

・部会員:105 名(平成 22 年 3 月 31 日現在)

・活動概要:平成 21 年度はシンポジウム 4 回、コンセプト事例発表会 1 回、見学会 1 回、合宿研究会 1 回、幹事会 7 回、総会 1 回、幹事選挙、ビジョンデザイン WG セッション 4 回（うち研究会準備委員会 2 回）、ビジョンデザイン SIG ミーティング 3 回、マザーロードマップ WG セッション 4 回実施。以下に主な活動を記す。

1)独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用

2)第 50 回日本人間工学会全国大会記念シンポジウム開催（平成 21 年 6 月 19 日、平成 21 年 8 月 20 日）

2 回開催、於:キャンパスイノベーションセンター出席者:57 名+33 名 計 90 名

テーマ:「ビジョン提案型デザイン手法シンポジウム」 司会:上田義弘(富士通デザイン)

講 演:「ビジョン提案型デザイン手法の概要」

山崎和彦(千葉工業大学)、郷健太郎(山梨大学)、柳田宏治(倉敷芸術科学大学)

「ビジョン提案型デザイン手法の事例」

早川誠二(リコー)、伊藤潤(ソニー)、吉井誠(アイエスティ)、森田善和(富士通エフサス)

「ビジョン提案型デザイン手法の今後活動に向けて」

高橋克実(ホロンクリエイト)

3) コンセプト事例発表会開催(平成21年9月10日) 於:文京シビックホール、出席者:69名

「ユーザー中心のデザイン発想法の提案」山崎和彦(千葉工業大学)、「わかりやすい地図の作成手法の研究」松尾毅(千葉工業大学大学院)、「ものづくりワークショップでのアイデア発想パターンと創造性との関連に関する一考察」安藤昌也(産業技術大学院大学)、「初心者に適したユーザビリティ評価手法の研究」為我井敦史(千葉工業大学大学院)、「NEM を用いたオンライン手続きのユーザビリティ評価およびモニタリング手法の提案」伊藤泰久(株)eyes Design)、「ビジョン提案型アプローチを応用した潜在的課題解決型のデザインプロセス フードコートのリデザインによる事例」廣瀬優平、安藤昌也、下田麻美、藤堂高樹、古畑直紀(産業技術大学院大学)、「ユニバーサルデザイン展開への一考察」大津慶子(首都大学東京)、「映像記録型ドライブレコーダと自動車交通予防安全 - 事後から事前へ大革新 - 」堀野定雄、森みどり、久保登(神奈川大学)、「バンド演奏のための作曲支援システムの提案」増田英之(千葉工業大学)、「インターネットサービスにおけるペルソナ手法の活用事例」吉井誠(株)アイ・エス・ティ)、「デザイン方法論WG・アカデミックロードマップWGの活動報告」(部会担当幹事) <ポスターセッション全18件>山口優(株)イード)、鞆幾也(株)eyes Design)、吉川修平、小西正太、高野一樹、小木八重花、重田りん、水沼天佑、根本慧、村山なつき、岩淵愛美、加藤郁(千葉大学)、青木孝太郎、此川祐樹、深井将史、木村友昭、柳井謙一(千葉工業大学)、七田俊輔、栗原佑治、杉山徹、田端秀輝、高石かおり、松橋賢、石堂まゆ、田島薫、富田郁成、寺本吉慶、金子正則、安藤昌也(産業技術大学院大学)

4) 見学会開催(平成21年10月28日) TOTO株式会社 UD研究所、参加者:12名

テーマ:「TOTO ユニバーサルデザインの取り組み」

5) シンポジウム開催(平成21年12月5日) 日本人間工学会第関西支部大会 於:奈良女子大学

テーマ:「人間中心デザイン指向ロードマップ策定の試み」発表者5名によるパネル討論 出席者:20名

6) シンポジウム開催(平成21年12月6日) 日本人間工学会第39回関東支部大会 於:武蔵野大学

テーマ:「ビジョン提案型デザイン手法の展開と実践」発表者6名によるパネル討論 出席者:50名

7) 合宿研究会 In Shonan 開催(平成22年3月12日~13日) 於:湘南国際村 出席者:41名

テーマ:「ビジョン提案型デザイン手法の実践ワークショップ」

ワークショップテーマ「チョコレート」、全体のまとめ・発表・今後の活動

8) 平成21年度部会総会開催(平成22年3月13日) 於:湘南国際村、活動報告・計画及び会計報告・予算

9) その他の活動:

- ・ビジョン提案型デザイン手法WG 活動中(担当幹事:山崎、早川、柳田、郷、高橋(克)、上田)
- ・ビジョン提案型デザイン手法SIG 活動中、ミーティング3回開催、メーリングにて情報提供実施。
- ・マザーロードマップ WG活動中(担当幹事:新家、高橋(靖)、堀野、細田、吉井、上田)
- ・「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の中国語翻訳への対応(岡田、柳田)
- ・4月発行日本人間工学会誌に部会総説掲載。

(3) 成果:様々な分野の方の参加により、ビジョン提案型デザイン手法の方法論としての精度が上がり、出版への弾みがついた。また、マザーロードマップの方向性が見えてきて、内容の詰めの段階となってきた。

(4) 問題点:ビジョン提案型デザイン手法を実践活用した事例の収集が必要となっている。

(5) 展望:部会活動の中心的課題である「ビジョン提案型デザイン手法」を確立し、出版を目指して活動する。

5-6. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長: 山下 利之 }

(1) 活動目的

当部会の活動目的は、人間の感性情報処理、およびそれらを用いた官能評価に関わる広範囲の研究領域に携わる研究者が、相互に刺激を与えあう場を作ることである。

(2) 手段・方法

その手段として今年度当部会が取り組んだ方法は、講演会の実施、関東支部大会におけるシンポジウムの企画、部会員のシステム大会への参加の促進である。2回の講演会は各々「感性からデザインへ」、「emotional engineeringの新たな展開」をテーマとして、日本知能情報ファジィ学会関東支部、感性工学会感性商品部会と共催した。若手研究者の研究意欲促進の手段としてはシステム大会での発表を活用した。

(3)活動内容

- 1)今年、日本知能情報ファジィ学会関東支部、感性工学会感性商品部会との共催により、2回の講演会を行った。
 - 第1回講演会「感性からデザインへ」(平成21年10月31日(土) 首都大学東京)
 - ・工藤芳彰(拓殖大学)「八王子の地域教育をデザインする」
 - ・岡崎 章(拓殖大学)「感性操作のためのデザイン, 感性を知るためのデザイン」
 - 第2回講演会「Emotional Engineeringの新たな展開」(平成21年12月19日(土) 文化女子大学)
 - ・酒造正樹, 山田一郎(東京大学)「障子: 雰囲気情報を伝達するコミュニケーション端末」
 - ・福田収一(Stanford University)「Emotional Engineering: 行動の合理化への模索」
- 2)日本人間工学会関東支部第39回大会(平成21年12月5日~6日、武蔵野大学)において、感性情報処理・官能評価部会企画シンポジウム「感性とデザイン」を企画した。話題提供者は以下の3名であった。
 - ・廣川妙子(文化女子大学)「姿勢を意識させるインナーウェアの着用効果」
 - ・工藤強勝(首都大学東京)「センシビリティなグラフィックデザインの一断面」
 - ・工藤芳彰(拓殖大学)「子供たちと地域をつなぐ教育ツールのデザイン」
- 3)第18回システム大会(平成22年3月12日~14日、大学セミナーハウス)では、「感性情報処理・官能評価セッション」において計10件の発表があった。

また、本部会は本研究領域の若手研究者を育てることを目指しているが、システム大会においても、以下に記すように、部会メンバーの指導学生による5件の研究発表があった。

 - ・尾沢陽子(首都大学東京)「方位と運動の安定的結合錯誤現象」
 - ・小高博之(首都大学東京)「地図利用における地図回転の効果」
 - ・三戸部純子(首都大学東京)「文字情報に対する指差確認の有効性の検証」
 - ・宮崎由樹(首都大学東京)「文脈が1対1関係に基づかないとき共同注意はスムーズに動作するか」
 - ・武 千鶴(首都大学東京)「音楽音と音のクロスモーダル効果: 弁別課題におけるクロスモーダル効果の検討」

(4)成果と問題点

2回の講演会は、「感性からデザインへ」、「Emotional Engineeringの新たな展開」をテーマに、その領域の最先端で活躍している研究者を招いてお話を伺い、活発な議論を展開した。また、これらの講演会は日本知能情報ファジィ学会関東支部、感性工学会感性商品部会と共催したことによって、他領域の研究者との交流が深まった。日本人間工学会関東支部第38回大会においては、企画シンポジウム「感性とデザイン」を開催し、大学及びデザイン業界で活躍されている先生方を交えての講演と活発な議論を行った。システム大会では、その開催の支援を行うと同時に、感性情報処理・官能評価セッションでは計10件の研究報告があり、これも充実した内容であった。

このように充実した活動がなされた反面、年度途中で部会長が交替したこともあり、当初計画した見学会や講演会を行うことができなかった。本年度はさらに講演会、研究会を増やすと同時に、見学会を行い、部会メンバーの学識を増やすとともに、システム大会における若手研究者の発表を大幅に増やしていきたい。

5-7. 看護人間工学部会

{ 部会長: 樋之津 順子 }

(1)テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し研究成果を公表する。

(2)手段・方法

1) 第 17 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

平成 21 年 8 月 29 日(土)に筑波大学において筑波大学大学院人間総合科学研究科の佐伯由香教授が主催した。一般演題の発表、ならびに佐藤政枝先生(首都大学東京健康福祉学部看護学科)による教育講演「看護人間工学からみた姿勢・動作の分析」と水野智美先生(当時近畿大学教職教育部、現、筑波大学)による特別講演「海外における点字ブロックの設置の誤りと適正化のための課題」が行われた。

2) 第 18 回システム連合大会への参加

平成 22 年 3 月 12 日(金)~3 月 14 日(日)に第 18 回システム連合大会が開催された。看護人間工学部会からも幹事会に参加した。

3) 日本人間工学会誌に部会会員が論文投稿するようよびかけた。

4) 看護人間工学研究誌第 10 巻を発行(平成 22 年 3 月)し、部会員に送付した。

5) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第 50 回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

1) 第 17 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会参加者は約 35 名、一般演題 7 題が発表した。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。今後の研究に役立つ内容であった。

2) 第 18 回システム連合大会への参加

2 部会に計 7 演題の発表を行った。

3) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

Vol. 45 No. 1, Vol. 46 No. 1 に各 1 編ずつ計 2 編が原著論文として掲載された。

4) 看護人間工学研究誌第 10 巻を発行(平成 22 年 3 月)し、部会員に送付した。

寄稿 2 編、原著 4 編、短報 2 編、第 17 回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

5) 第 50 回大会の正確な参加人数は把握していないが、今後も参加を促していく。

(4) 問題

1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。

2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。

2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。

3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。

4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

5-8. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長: 平沢 尚毅 }

(1) 平成 21 年度活動テーマ

「情報通信技術を応用した社会システムに対する人間中心アプローチの可能性と課題」について探求した。これまで、製品や個別システムを対象としてきた人間中心アプローチを、社会システムを対象とした場合の可能性と課題を明らかにしてゆく。

(2) 活動内容(手段・方法)

1) ワークショップの開催

2010 年 3 月 15 (月) 東海大学高輪校舎にて、『要求仕様定義と人間工学』というテーマでワークショップを開催した。開催の趣旨は、情報システム開発の根幹となる「要求定義」を専門としてご活躍される筑波大学の中谷多哉子先生をお迎えして、情報システムに対して人間工学が支援できる課題を議論した。

ワークショップでの講演

「要求仕様定義と人間工学」中谷多哉子氏(筑波大学大学院)

中谷先生からは、最近の要求仕様定義の課題について、人間工学と関わりある領域について、話題提供をい

ただいた。要求仕様定義が、システムの安全にも深く関わっており、今後、更に人間工学との交流が必要となることを明示いただいた。

これを受けて、ディスカッション「情報システム開発における人間工学の役割」を実施した。その結果、人間工学が情報システムの開発に対して、更に、貢献できることがあることが理解された。

2) 役員会の開催

今年度の役員会は、役員全員の日程調整がうまくゆかなかったために、ネットワークを利用した持ち回り会議によって実施した。主な議題は、平成 21 年度部会計画、事務体制の整備等である。

(3) 成果

10 年ぶりに情報システム研究で活躍されている専門家とのワークショップを実施した。かつては、情報システム関係者と人間工学との接点を見いだすににくい状況があったが、内閣府が『ユーザビリティガイドライン』を施行するなどの社会環境も変化しているため、相互理解の土壌が生まれる可能性を感じた。

(4) 問題点

多忙な部会役員が多く、地域も離れている役員がいるために、日程調整が困難になってきている。事務体制を再度検討して、部会の円滑な運営をする必要がある。

(5) 展望

これまでは、モノを対象として人間工学を適用してきたが、行政、社会システムのように、対象を大規模なシステムに拡大した場合に、従来の人間工学の手法がどこまで活用できるのかを分析し、課題を明確にする中で、新たな方向性を打ち出したいと考えている。

5-9. 聴覚コミュニケーション部会

{ 部会長: 江袋 林蔵 }

(1) テーマ 聴覚コミュニケーション研究情報の交流促進

成果概要：先の 5 年間で人間工学の分野における聴覚研究の活動領域探索が課題であったが、第 2 会期初年度にあたり、過去 5 年の総括と今後の活動の見通しを学会誌に特集号「聴覚」としてまとめることができた。以下にその状況を報告する。

(2) 研究情報の交流促進の手段

- 1) 研究会の開催・他学会との交流
- 2) 幹事会の開催
- 3) ニュースレターの発行
- 4) ホームページの更新

(3) 研究情報の交流促進活動

1) 研究会の開催

a) JES50 大会シンポジウムの開催

* 本大会より、大会 KW に「聴覚」が登録された。

b) 聴覚コミュニケーション研究会の開催

c) 音響学会 聴覚研究会の共催

d) IEA2009 AETC における交流

2) 幹事会の開催

部会運営上の案件につき幹事会ネット上で随時開催する。

3) ニュースレターの発行

幹事会議事結果 / 審議案件・研究会情報等を随時部会員ネットを通じて広報する。

4) ホームページの更新

主要な部会活動を、行事の都度ホームページ内容を更新広報する。

(4) 成 果

概 要：平成 21 年度の活動課題とした JES50 大会でのシンポジウムの開催、AEG 研究会の開催、九州地区での

音響学界聴覚研究会の共催、iea2009 AETC「Auditory Ergonomics TC」での交流、また、過去5年の総括と今後の活動の見通しを学会誌 人間工学 Vol.45, No.6 特集号 [聴覚] にまとめることができ、JES大会KWに「聴覚」が登録され、目標を達成した。

1)研究会

a)JES50 大会シンポジウム

日 時：2009年6月10日

場 所：産業技術総合研究所

テ ー マ：聴覚と感性

座 長：岩宮真一郎（九州大学）

シポジスト：4名

発行資料：02-1~4、人間工学 Vol.45 Supplement pp.104-111.

b)聴覚コミュニケーション研究会開催

第4回 AEG 聴覚コミュニケーション研究会開催

日 時：2009年9月8日

場 所：産業技術総合研究所 臨海副都心センター

テ ー マ：聴覚と応用

発表件数：3件

発行資料：AEG2009-01~03

c)音響学会 聴覚研究会の共催

第5回 音響学会聴覚研究会 共催研究会

日 時：2009年12月4~5日

場 所：熊本大学（黒髪北キャンパス くすの木会館）

テ ー マ：聴覚一般

発表件数：11件

発行資料：聴覚研究会資料 Vol.39 No.8

H-2009-96 ~ H-2009-106

d)iea2009 AETC

日 時：2009年8月8日~8月9日

場 所：北京九華山庄 16th District, International Conference and Convention Center.

テ ー マ：Auditory Ergonomics

座 長：Fred Aghazadeh (UIA), Helmut Strasser (Germany)

発表件数：5件

発行資料：Program Book P.56.

2)幹事会

上記活動・IEA活動検討・次年度活動計画・新会員入部審査等随時開催

3)ニュースレター

幹事会審議結果等の部会内広報を随時行った。

4)ホームページ

研究会活動状況の広報改版を行った。

5)学会誌特集号の発行

人間工学 Vol.45, No.6 特集号 [聴覚] の発行.

*部会総説 及び 総説 各1編、原著論文：2編

(5)課題と対応

1)H21年度は人間工学分野における研究活動の独自性の探索が課題であったが、従来型の研究活動の中から、聴覚と人の営みについての関心の兆しが見え始めている。昨年度に引き続きこの認識の更なる共有が課題と考え、

特集号別刷りの配布やニュースレターの充実を図るなど一層の部会内コミュニケーションの促進を図る。

2) IEA における AUDITORY ERGONOMICS TC (AETC) との活動連携に関しては、AETC Chair の Ellen HAAS が Fund の都合で大会参加を断念した経緯があり、今後の活動展開に検討の余地を残した。

(6)展 望

AEG 研究会活動や他学会との関りを通じ、社会貢献を意図した当学会の研究領域の展開を意図する。

5-10. システム大会部会

{ 部会長：富田 豊 }

(1)活動テーマ:

感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧資格エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して17年前に発足した。2009年度は高尾秀伸(神奈川工科大学)が世話人となり、大学セミナーハウス(八王子市)で開催された。

(2)部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：4月30日(木)18:00~19:30

場所：文化女子大学(新宿)

議題：本大会の今後の事業形態について、次回開催地、開催形態 等

・第2回システム大会幹事会

日時：9月1日(火)17:00~18:30

場所：文化女子大学(新宿)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：11月21日(土)15:00~17:00

場所：文化女子大学(新宿)

議題：HPの作成などについて、他

・第4回システム大会幹事会

日時：1月9日(土)15:00~17:00

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス(秋葉原)

議題：HPの作成資料、JES誌告知文検討、プログラム枠作成、企業展示検討、他

・第5回システム大会幹事会

日時：2月27日(土)15:00~17:00

場所：早稲田理工学部(西早稲田)

議題：プログラム決定、夜話決定、企業展示決定、他

(3)システム大会

・参加者:約70名

日/時	3月12日(金)	13日(土)	14日(日)
10:00	学生セッション(三家)	シーティング(小山・三家)	看護人間工学(國澤)
13:00	人をはかる(富田)	感性・官能評価(廣川)	(幹事会)

15:00~17:00	視・聴覚(高尾)	感性・官能評価 (山下)	
17:00~19:00	企業展示	企業展示(17:00~18:00)	
19:00	研究交流会(領域のグレイゾーンを考える)	夜話(ギターとフラメンコの秘密を一夜で知ろう. 神奈川工科大学・徳弘一路先生)	

(4)例年通り、泊り込みの学会なので、参加した学生たちが他大学の教員や企業の方々とコミュニケーションできたことは大きな成果であった。学生の参加費の一部に学会からの補助を当てた。

(5)展望：部会活動の中心的課題である「人間工学のシステム関連の分野を包括した研究」を続け、電子媒体を駆使しながら、活動する。

平成22年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当:八田 一利}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会の充実化を図り、今後とも人間工学に関わる諸課題を解決し、健康で安全な社会の発展に寄与する公益団体を目指す。
- (2) 第51回大会を横山真太郎大会長のもと平成22年6月19日～20日に北海道大学で開催する。
- (3) 第1回定時社員総会を平成22年6月19日に北海道大学において開催し、平成21年度事業報告・収支決算、第2期理事及び監事の選任、平成22年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第52回大会を河合隆史大会長のもと平成23年6月に早稲田大学で開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) 機関誌「人間工学」の第46巻2～6号および第47巻1号の計6冊を発行する。
- (7) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回程度実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (8) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当、横断型基幹科学技術研究団体連合担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、国際人間工学連合PSE担当、子ども人間工学委員会、研究倫理審査検討委員会、ニーズ対応委員会、安全人間工学委員会、企業の人間工学教育のあり方検討委員会、テレワークガイド委員会、人間工学技術戦略委員会、文科省科研費担当、第51回大会担当および第52回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (9) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。研究部会は、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、システム大会部会の計12部会とで活動を行う。
- (10) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA理事会(10月10～11日、ブル・ジュ・ベルギ-)への出席、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会、特にPSE委員会(藤田委員長)への協力を行う。ESK(大韓人間工学会)/JES合同シンポジウム2010、大田、韓国での開催に協力を進める。
- (11) 平成22年大島正光賞、同研究奨励賞の受賞論文、平成22年度功労賞、同優秀研究発表奨励賞の受賞者を決定し、各受賞者に授与する。また名誉会員候補者の選考、国際表彰への対応、既存の表彰制度の整備を行うとともに、「日本人間工学会賞(仮称)」等の新規表彰制度創設に向けて準備を進める。
- (12) 産学官民連携を含めた他学会等との共同事業を広く展開するとともに、人間工学の社会への普及および啓蒙を図るため、公開講座、セミナー、シンポジウムの開催および共催等の事業を行う。
- (13) 日本学術会議との連携強化、関連学術団体との連絡および協力を進め、人間工学の普及に努める。
- (14) 学会事務局の業務運営の合理化については、継続して一部会員管理業務の外部委託を推進する。対象業務は、webによる新会員申し込み手続き・会員管理業務・支部長による各支部会員管理であり、会員データベースの変更についてのweb化にも取り組む。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：吉武 良治、副委員長：下村 義弘}

- (1)理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。
- (2)グッドプラクティスデータベース（GPDB）の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努める。
- (3)人間工学関連リーフレットの作成・配布、学生・企業の架け橋プロジェクトなど推進中の広報活動をさらに発展、推進する。
- (4)学会ホームページは、平成22年4月に第一次リニューアルを実施済であるが、平成22年度はその新規ホームページの運用を軌道にのせるための活動を推進する。また、コンテンツについてはニーズ対応委員会と連携して、充実させる。

2-2. 編集委員会

{委員長：小松原 明哲、副委員長：三澤 哲夫}

- (1)学会誌「人間工学」の年6号分の通常の編集・発行業務を行う。
- (2)投稿原稿の査読に関して、査読の質を高めつつさらなる効率化と迅速化をはかる。
- (3)人間工学領域発展のための場としての学会誌のあり方について検討し、順次実現する。
- (4)編集委員会のホームページをさらに充実させ、学会員ならびに論文投稿者の利便をはかる。
- (5)掲載論文の電子化を始め、各種編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。
- (6)平成22年度の編集委員会は、これまで通り奇数月開催を予定し偶数月には電子編集委員会を開催する。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：小谷 賢太郎}

- (1)ESK/JES Joint Symposium 2010, Daejeon, Korea の JES 窓口として会員参加への協力
- (2)IEA 理事会((10月10～11日)への参加 Bruges(Belgium)
国際協力委員が council member として3名、ならびに alternate member 1名が出席予定
- (3)国際協力活動およびその他
 - ・IEA アワード申請への協力
 - ・IEA 内の各委員会への協力
 - ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：吉武 良治}

ISO/TC159（人間工学）分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

- (1)会議：全体会議4回、分科会延べ60回前後開催予定
- (2)予定されている主な審議項目
 - ・SC1（人間工学の一般原則）
 - ・ISO/DIS 26800「人間工学 - 人間工学の一般的方法、原則および概念」の審議
 - ・SC3（人体寸法と生体力学）
 - ・ISO/NP TR12295「人間工学 - ISO11228 シリーズ活用のためのガイドライン」の審議
 - ・ISO/NP TR12296「介護業務等従事者のためのマニュアルハンドリング」の審議

- ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ ISO9241シリーズ規格「人とシステムのインタラクション関連規格」の審議
 - ・ ISO/CD 11064-4「コントロールセンターの人間工学設計 - ワークステーションの配置と寸法」の審議
 - ・ ISO/PRF TR18152「人-システム系インタラクションの人間工学 - 人とシステムに係るプロセス評価のための仕様」の審議
 - ・ ISO/NP TS20282-3「日用品の使いやすさ - 消費生活製品のための試験方法」の審議
 - ・ SC5 (物理的環境の人間工学、特別な配慮を必要とする人々のための物理環境)
 - ・ ISO/NP 16077「物理環境の人間工学 - 被験者を用いた室内空気質の評価方法」の審議
 - ・ ISO/DIS 24500「人間工学 - アクセシブルデザイン - 消費生活の報知音」の審議
 - ・ ISO/DIS 24501「人間工学 - アクセシブルデザイン - 消費生活製品の報知音」の審議
 - ・ ISO/DIS 24502「人間工学 - アクセシブルデザイン - 視覚表示物の年代別相対輝度の求め方」の審議
 - ・ ISO/DIS 28802「物理環境の人間工学 - 環境アセスメント」
 - ・ ISO/DIS 28803「物理環境の人間工学 - 特別な配慮を必要とする人々に対する国際規格の適用」
 - ・ TC159/WG2 (特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)
 - ・ ISO/TR22411「高齢者・障害者のニーズに配慮するために製品及びサービスの規格へ ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学データとガイドライン」第2版作成
 - ・ JIS 原案作成
 - ・ JIS X8907 (方向通則) 改訂版のための原案作成
- (3) 国際会議予定
- ・ TC159 総会(10/20-21: ヴィースバーデン/ドイツ) 他各 SC、WG の会議複数予定

2-5. 表彰委員会

{委員長: 阿久津 正大、副委員長: 矢口 博之}

(1) 委員会開催

委員会を6回開催する。そのほかに随時電子メールで討議を行い、下記の活動を進める。

(2) 活動内容

- 1) 表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集する。
- 2) 既存の表彰制度の見直し・整備を継続して行う。
- 3) 「日本人間工学会賞(仮称)」の表彰制度創設および同賞受賞者の選考に向けて準備を進める。
- 4) 人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設に向けて広報委員会と連携して準備を進める。
- 5) 第51回大会・総会時に平成22年度(第3回)「日本人間工学会功労賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成23年度(第4回)同賞の受賞候補者の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。
- 6) 第51回大会・総会時に平成22年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成23年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞候補者の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申する。
- 7) 第51回大会における「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」の受賞者を選考し、受賞者に対する表彰を行う。また第52回大会における同賞受賞者の選考に向けて準備を進める。
- 8) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼等について対応する。また国際表彰の対応手続きの整備を図る。
- 9) 表彰委員会 HP を開設し、表彰に関する広報活動を積極的進める。また歴代の受賞者一覧を学会 HP に掲載する(広報委員会/ニーズ対応委員会との連携)。

2-6. 日本学術会議担当

{担当: 大須賀 美恵子、芳賀 繁、青木 和夫}

(1) 日本学術会議との連携の拡充

日本学術会議から発信される情報は随時日本人間工学会の HP に掲載するとともに、日本学術会議主催の諸活動に積極的に参加する。

(2)日本学術会議主催の安全工学シンポジウムへの協力

安全工学シンポジウム 2010(幹事学会:安全工学会、2010年7月8日、9日、日本学術会議)の開催に協力する。

2-7.横断型基幹科学技術研究団体連合担当 {担当:青木 和夫、山本 栄、酒井 一博、加藤 象二郎}

- (1)横断型基幹科学技術団体連合のシンポジウム(2010年9月5~6日、東京)等の活動に積極的に参加する。
- (2)会誌「横幹」第4巻第1号、第2号の編集を行う(編集委員長:青木和夫)。
- (3)学会員への広報を積極的に行う。

2-8.人間工学専門家認定機構 {機構長:青木 和夫、副機構長:福住 伸一}

(1)資格認定試験を実施する。

資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回程度実施する。準専門家・人間工学アシスタント試験を年4回程度実施する。

A方式試験:2010年9月17日(金) 東京

(2)定期総会、講演会、幹事会を開催する。

講演会 日時:2010年4月23日(金) 14:00~15:50

会場:中央大学駿河台記念館 330号室

講演:藤田 祐志(株式会社テクノバ) 演題:「IEAの常設委員長に就任して」

山本 雅康(ソフトバンクモバイル株式会社) 演題:「携帯電話事業者からみた携帯電話UI」

総会 日時:2010年4月23日(金) 16:00~17:00

会場:中央大学駿河台記念館 330号室

幹事会(2回開催予定)

(3)役員任期延長を行う。

一般社団法人の役員任期と合わせるために、1年間任期を延長する。

(4)再認定を促進する。

(5)シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第51回大会(札幌)においてシンポジウム「人間工学専門家資格の活用と課題」を行う。

(6)機構ホームページ、会報、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(7)人間工学グッドプラクティスデータベース作成に積極的に協力する。

(8)IEA専門家教育委員会の活動に協力する。

(9)学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

(10)定期総会時以外に講演会を開催する。

[臨時委員会担当]

2-9.国際人間工学連合PSE担当 {委員長:藤田 祐志}

国際人間工学連合(International Ergonomics Association: IEA)の常設委員会である Professional Standard & Education(PSE)委員会は、主に開発途上国を対象とする人間工学啓蒙において果たすべき役割、および人間工学の品質を確保するための役割を検討するとともに、人間工学の教育の機会を与えることについて検討することとしている。グッドプラクティスデータベースの普及と教育的活用や、人間工学専門家資格認定制度の標準化にかかわる問題などに取り組む方針である。これらは日本人間工学会が大きく寄与できるテーマであるため、学会内関係者が協力して、IEAの活動を支援する。

2-10. 子どもの人間工学委員会

{委員長:小松原 明哲}

- (1)平成 21 年度人間工学技術戦略委員会のもとに設置された「子どもの人間工学分科会」を母体として、生活者としての子どもを視座に置いた人間工学の研究課題を明らかとする。
- (2)この領域に関心のある有志からなる委員会を組織し、電子会議及びワーキンググループ会議などを活用し課題の整理を行う。
- (3)ホームページや大会等の場を活用して成果の発信を行う。

2-11. 研究倫理審査検討委員会

{委員長:横井 孝志}

2009年11月に、日本人間工学会は「人間工学研究のための倫理指針」を策定した。しかし、日本人間工学会として研究倫理審査委員会を設置し、倫理審査機構を持たない企業や大学等の研究倫理審査を請け負うかどうかについては、未だ検討されてはいない。本検討委員会では、人間工学研究における倫理審査を外部委託することについてのニーズや既に研究倫理審査を請け負っている学会の状況や審査体制等を調査し、これらをもとに日本人間工学会として研究倫理審査委員会を持つべきかどうか、あるいは研究倫理審査委員会を持つ際の必要条件等について検討する。

2-12. ニーズ対応委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:岩切 一幸}

平成 21 年度の「ニーズ対応型人間工学展開委員会」の活動を継続し、Web サイト等を積極的に活用した人間工学の普及策と情報発信戦略を展開する。理事会、各種委員会・担当、各支部などと連携事業を促進し、引き続き下記の活動を実施する。

- (1)企業における人間工学実務者や学生など、若手人材支援策を引き続き検討、情報発信する。
- (2)産学官民の協同・連携支援策として、「人間工学の領域・人材・組織・事例を繋ぐリレーショナル・データベース」の整備と提供を行う。
- (3)更なる人間工学領域の研究促進と活性化を図るため、タスクフォースを委員会内に立ち上げ「学術戦略プロジェクト」の可能性や展開方法を検討する。
- (4)学会 web リニューアルに実装した新期コンテンツについて、持続可能な運用システムの整備と検証を行う。
- (5)国際人間工学連合 / PSE 担当 (藤田祐志) の活動をバックアップする。

2-13. 安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁、副委員長:首藤 由紀}

- (1)隔月で委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2)委員を一人増員して 5 名とする。
- (3)日本人間工学会サイト内に安全人間工学のホームページを開設する。
- (4)安全人間工学研究部会の運営をサポートする。
- (5)日本人間工学会第 51 回大会において「安全人間工学再興」というテーマでシンポジウムを企画する。

2-14. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

{委員長:酒井 一博、副委員長:易 強}

- (1)委員会の開催
3 回程度の委員会を開催する。
- (2)企業の人間工学教育の実践
2~3 業種・職種を対象にして、人間工学教育の実践を行う。
- (3)シラバスおよび履修モデルの見直し

2010年度の実践結果を踏まえ、企業人を対象とした場合の教育プログラムの見直しを行う。

2-15.テレワークガイド委員会

{委員長：吉武 良治、副委員長：北島 洋樹}

- (1)平成21年度に収集・検討したテレワーク関連情報をもとに、テレワークの健全な発展のために、日本人間工学会として取り組むべきこと、今後の方向性などを検討する。例えば、テレワークでの働き方を支援するためのツールの調査・整理や、働き方に関する考慮点などを整理する等を検討する。
- (2)日本人間工学会として検討、策定すべきテレワーク関連のガイドラインやパンフレットの策定などを検討する。平成21年度に策定した「ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン」は、原則としてオフィスや自宅などの屋内でのB5サイズ以上のノートパソコン利用を対象としていたため、さらに利用範囲や対象機器を広げたガイドの必要性などを検討する。
- (3)現在公開しているガイドラインの認知度を高める活動などを検討する。

2-16.人間工学技術戦略委員会

{委員長：藤田 祐志}

- (1)技術戦略ロードマップの活用に関する検討を継続し、理事会への提言をまとめる（E-委員会）。基本方針は、以下の通りである。
 - 1)社会的価値のある課題について、研究開発を要する人間工学技術要素（e.g. DB）を同定し、それらの相互関係をマップで表現する。
 - 2)既存のマップ全体の更新より、有望テーマ（e.g. 「子ども」）の展開を推進し、その上で全体マップの見直し方法を検討する。
 - 3)有望テーマを「重点テーマ」と位置づけ、活動を支援する。
 - 4)IEA活動への寄与を推進し、JESのプレゼンスを強化する。

2-17.文科省科研費担当

{担当：斉藤 進、青木 和夫}

「人間工学」は、文部科学省科学研究費補助金の系・分野・分科・細目表（平成19年1月改正）において、生物学及び医歯薬学分野のキーワードとして記載されている。人間工学が本来果たすべき社会的・学術的役割の重要性から、「人間工学」をこれら以外にも分科細目表に採択するよう、学会として積極的に要望することを平成21年度総会で決議している。これに基づき平成21年度に実施した内容のフォローアップを平成22年度に行う。

- (1)「時限付き分科細目表」の新分野候補として人間工学を採択するよう日本学術振興会へ提出した要望につき、文科省担当官等と情報交換を行う。
- (2)平成21年末に実施した科研費への応募実績や要望等のWebアンケート結果の分析を更に進め、人間工学を社会的・学術的に一層普及させるための方策を理事会等で検討する。

2-18.第51回大会担当

{担当：横山 真太郎}

【開催日】2010年6月19日（土）、20日（日）

【大会会場】北海道大学 学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

【懇親会場】札幌アスペンホテル（札幌市北区北8条西4丁目）

- (1)大会企画シンポジウム「人間工学 - その伝統と未来 -」を企画する。
- (2)IEAのImada会長に特別講演をお願いする。
- (3)学会企画パネルディスカッション「安全人間工学再興」を行う。
- (4)公募シンポジウムの中から、3課題を企画化し、「サービス工学をめぐって」を開催する。

- (5)その他、公募シンポジウムとフォーラム合わせて、8テーマ開催する。
- (6)今回から導入したハイブリッド発表(口頭で3分以内で発表し、ポスターの前で質疑応答するもの)は、112題。その中から、ポスター賞を授与する。優秀賞(アイデア賞)、優秀賞(ユーモア賞)、優秀賞(ハートフル賞)、優秀賞(安全賞)、優秀賞(エコライフ賞)等を実行委員会が選定する。なお、従来形式の口頭発表件数は、78題。
- (7)大会案内はホームページ(<http://jes2010.jp>)を活用して行う。

3.支部活動

3-1.北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

(1)会議

- 1)支部役員会 平成22年5月21日(金)北海道大学工学部(予定)
- ・平成21年度 支部事業報告
 - ・平成21年度 決算報告並びに監査報告
 - ・平成22年度 予算案
 - ・平成22年度 支部事業計画案
 - ・平成22年度 日本人間工学会第51回大会(6月19日~20日)開催支援について

(2)平成22年度支部総会

大会長:横山真太郎(北海道大学)

日時:平成22年6月20日(日)

場所:北海道大学学术交流会館

1)支部総会議題

- ・平成21年度支部事業報告
- ・平成21年度決算報告並びに監査報告
- ・平成22年度予算案
- ・平成22年度支部事業計画
- ・平成22年度日本人間工学会第51回大会(6月19日~20日)開催支援について
- ・平成23年度北海道支部大会開催について

3-2.東北支部

{支部長:北村 正晴}

(1)支部講演会

本企画では、多様な学術分野での研究、実践活動の中から、広い意味で人間工学に関係を持つテーマについて有識者による解説的な講演を企画する。年間1~2回の開催を計画。仙台地区以外での開催も検討する。

(2)支部研究会

本企画では、人間工学と関わりが深い学術領域の研究者を中心とした研究報告と討論を行う。

年間2~3回の開催を計画。

第1回支部主催研究会は8月21日(土)仙台にて開催を予定

第2回支部主催研究会は10月下旬を予定

(3)支部役員会 年間3回程度を予定

1)平成22年度第1回支部役員会

- ・日時:平成22年4月5日17:30~19:10
- ・場所:東北大学未来科学技術共同研究センター2F北村研究室
- ・出席者:5名

- ・議事：平成 22 年度事業計画
 支部総会議案および資料作成
 平成 22 年度支部活動の重点事項
 その他

(4) 支部総会

- ・日時：平成 22 年 4 月 23 日（金）16:00～
- ・場所：東北大学工学研究科 総合研究棟 第 2 講義室
- ・議事：一般法人化に伴う現況説明
 平成 22 年度役員選出
 平成 21 年度事業報告および決算報告
 平成 22 年度事業計画案および事業予算案
 その他

(5) その他

研究交流会記録、講演会記録は原則として文書化して HP に開示する。
 支部メーリングリストを活用して、支部所属会員との双方向コミュニケーションの一層の強化を図る。

3-3. 関東支部

{支部長:八田 一利}

(1) 第 40 回関東支部大会

- ・開催日:平成 22 年 12 月 4 日(土)～5 日(日)
- ・会 場:東海大学高輪キャンパス
- ・大会長:西口 宏美 先生

(2) 支部委員会 年 2 回開催予定

(3) 基礎技法講習会、シンポジウム、卒業研究発表会、企業・研究機関交流、見学会などを開催予定

(4) ニュースレターの発行

3-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

(1) 平成 22 年度日本人間工学会東海支部総会の開催

平成 23 年 3 月中に開催予定

(2) 平成 22 年度日本人間工学会東海支部研究大会の開催

- ・開催日：2010 年 10 月 30 日(土)
- ・開催場所：名古屋工業大学
- ・大会長・実行委員長：仁科健 名古屋工業大学
- ・基調講演：北川啓介 氏 名古屋工業大学建築デザイン工学科 准教授
 演題：未定

(3) 講演会の開催

(4) その他

- 1) 研究部会活動への補助運営
- 2) 見学会等の開催
- 3) 他学会との協賛
- 4) 役員会の開催(2 カ月に 1 回程度 / メール審議を含む)

3-5. 関西支部

{ 支部長:萩原 啓 }

(1) 企画・行事等

- 1) 見学会 平成 22 年 10 月頃
- 2) 支部大会
開催日:平成 22 年 12 月 4 日(土)~5 日(日)
会 場:大阪工業大学
大会長:大須賀美恵子(大阪工業大学教授)
- 3) 講演会等 平成 23 年 3 月頃(支部総会と併催)

(2) 会議・総会等

- 1) 第 1 回企画幹事会 平成 22 年 6 月頃
- 2) 第 1 回評議員会役員会合同会議 平成 22 年 12 月 4 日(土)(支部大会と併催)
- 3) 評議員選挙 平成 22 年 12 月~平成 23 年 1 月
- 4) 第 2 回企画幹事会 平成 23 年 1 月頃
- 5) 選挙管理委員会 平成 23 年 2 月頃
- 6) 第 2 回評議員会役員会合同会議 平成 23 年 3 月頃(総会と併催)
- 7) 支部総会 平成 23 年 3 月頃
- 8) 優秀発表賞授賞式(支部総会時)

3-6. 中国・四国支部

{ 支部長:村田 厚生 }

(1) 理事会開催(3 回程度)

- 第 1 回(事務局引継ぎ):2010 年 3 月下旬,場所:県立広島大学保健福祉学部
- 第 2 回:2010 年 10 月 30 日,場所:広島大学医学部 広仁会館
- 第 3 回:2011 年 2 月下旬,場所:岡山大学工学部

(2) 支部大会開催

- 第 43 回日本人間工学会中国・四国支部大会
開催日:2010 年 10 月 30 日(土),場所:広島大学医学部 広仁会館
大会長:宇土 博 先生(広島文教女子大学)

(3) 支部講演会開催(2 回程度)

- (4) 支部表彰の実施
- (5) その他

3-7. 九州・沖縄支部

{ 支部長:長谷川 徹也 }

(1) 活動計画

- 1) 第 31 回支部評議員会
・開催日:平成 22 年秋期開催予定
・会 場:未定
 - 2) 第 31 回支部大会および会員総会
・開催日:平成 22 年秋期開催予定
・会 場:未定
・大会長:未定
 - 3) 「九州人間工学第 31 号」の発送
- (2) その他

4. 研究部会活動

4-1. 医療安全研究部会

{ 部会長:土屋 文人 }

<H19.4.1~5年以内>

(1)活動テーマ

我が国における医療安全への人間工学分野の研究及び関係者に対する啓発活動は、この10年余の間に、医療機関や関連企業及び行政を含め定着しつつある。しかしながら医療政策のまずさから医療崩壊が発生し、慢性化した人手不足に起因したエラー、あるいはIT導入によるコンピュータシステムとのインターフェースのまずさに起因したエラーの発生等、医療は極めて厳しい環境下におかれている。人間工学的な研究も全体的には増加しているが、未だ基盤整備段階にあるといえる。昨年度は部会活動は殆ど休止状態にあったことへの反省を含め、今年度は「医療分野における安全文化の定着化」を目標に、医療機関や関連企業に向けた啓発活動を行う予定である。

(2)手段・方法

1)医薬品関係

横幹連合の医薬品インターフェース調査研究会と連携をして、昨年度実施できなかった製薬企業を対象とした人間工学的研究の普及等を目指した講習会等の開催を行う。

2)医療機器関係

昨年度計画倒れに終わってしまった医療機器等に関する人間工学研究の支援の方策について検討を行うとともに、可能であれば医療機器関係企業への講習会等の開催を行いたい。

(3)期待される成果

診療報酬改定により、病院についてはわずかながら対応がとられたものの、依然として厳しい環境にある医療の世界において、医薬品や医療機器の製品の改善等による医療スタッフへの側面支援を図る。

4-2. 衣服人間工学部会

{ 部会長:高部 啓子 }

<H19.4.1~5年以内>

(1)研究テーマ

平成14年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきた。本年も昨年に引き続き、近未来の衣生活における衣服の設計条件からその機能性や安全性などの評価方法に関わる諸問題について研究を進めていく予定である。また若手人材の育成も念頭に置き、勉強会や見学会なども開催していく予定である。

(2)例会の開催 年2~3回程度開催予定。

1)第1回役員会

開催日:平成22年5月(予定)

場所:文化女子大学

(3)期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学の現状をとらえ、最新の研究などの情報収集や勉強会を行うことで、アパレル産業における衣服設計生産の現場で衣服人間工学が活用され普及することが期待される。

4-3. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長: 山本 栄 }

<H19.4.1~5年以内>

- (1)2010 年 7 月にマイアミで開催される AHFE2010 にオーガナイズドセッション “Prospective Tactile & Haptic Interactions” を組み 7 件を発表する予定である。
- (2)第二回触覚インタラクション研究会を秋に開催予定である。
第一回と同じように、研究発表というより、参加者が話題提供を行いながら触覚インタラクションの研究方向と応用分野の開発を議論したい。
- (3)広報活動
触覚インタラクションはまだ人間工学分野では盛んでないので、広報活動を行っていく。部会の Web も再検討を行う予定である。

4-4. 航空人間工学部会

{ 部会長: 垣本 由紀子 }

<H20.4.1~5年以内>

- (1)研究目的
本年度は「過去の事故事例から学ぶ」をテーマとし、航空事故事例から得たヒューマン・マシンインターフェースに関わる問題、人間特性に関わる問題、事故防止対策・教訓等及び最新の事故調査の動向を分析検討し、研究例会において活発に討議を行う。
- (2)方法・手段
 - 1)研究例会の開催
日時：平成 22 年 7 月 2 日(金) 10:00 - 17:00
場所：国立オリンピック青少年記念センター、センター棟 310 室
予定分析事例
 - ・国内外で多発している滑走路誤侵入事故
 - ・エールフランス 447 便大西洋墜落事故
 - ・国内外におけるタービュランス事故特別講演として
わが国におけるインシデント報告 (ASI-Net) システム 10 周年をふりかえって
ATEC (航空輸送技術研究センター) 担当
 - 2)部会ホームページの運営
インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用する。本年度は、より質の高い内容の掲載し充実を図る。
 - 3)委員会・幹事会の開催
適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。
 - 4)例会資料の電子ファイル化の継続
昨年同様、本年度開催される例会資料を CD-ROM 化し、社団法人日本航空協会が運営する航空図書館に寄贈し、一般の供覧に提供する。なお、講演者の承諾を得られたものについてのみ実施する。
- (3)期待される成果
航空安全の推進に関わる官・民・学および諸外国をも含めた多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し、討議を重ね、情報を共有することができる場を当研究部会が提供できることで、航空人間工学の知見獲得が可能となるだけでなく、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-5.アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

<H20.4.1～5年以内>

(1)活動テーマ：「次世代のアーゴデザイン活動を探る」

1)具体的な活動

平成 18 年度から実施している「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論」研究が進み、本年度「ビジョン提案型デザイン手法」として出版する予定である。これにより、多くの人々にこの人間工学的な手法を提供し、本研究活動を収束する。

また、今年度はこの活動に加えて、昨年度から具体的にになってきたマザーロードマップの研究活動を具体的に進める予定である。同時に、「アーゴデザイン活動が次世代の社会に対して何をすべきか」を探ることにした。具体的には、産業界からの参加が多い部会特性を生かし、研究会等を通じて様々な見識の人々の参加により「これからのアーゴデザイン活動」について議論を深めていく予定である。

2)ワーキンググループの活動

今期は、ビジョン提案型デザイン手法ワーキンググループでは、部会員や SIG 会員等の外部協力者との連携を深め、実践事例の収集や手法のまとめを実施して出版を行う。また、マザーロードマップワーキンググループでは、活動をより具体化し、発表の機会を多くする。

3)独自ドメイン[ergo-design.org]の Web サイトによる広報活動の充実

今期は、会員相互の情報交換と部会活動の広報手段としての機能をより一層充実させるため、独自ドメインで運営しているホームページのデザイン改善を実施する予定である。同時に、部会員との連絡手段としてのメーリングリストネットワークの活用と SIG メーリングリストの運用も実施する。

4)期待される成果

「ビジョン提案型デザイン手法」の出版により、新しい人間工学方法論の試みを広めることができる。さらに、マザーロードマップの考え方を提案していくことで、デザインや人間工学の様々な話題を検討・議論するための場を提供することができる。そして、次世代のアーゴデザイン活動に関する議論を深めることで、今後、アーゴデザイン研究の向かうべき方向性を定めることができる。

(2)活動予定

4月 幹事会、ロードマップ WG セッション

5月 第51回全国大会部会シンポジウム、発表準備ビジョンデザイン WG セッション

6月 第51回全国大会部会シンポジウム、テーマ「ビジョン提案型デザイン手法の実践」

第51回全国大会部会、マザーロードマップの一般演題発表

幹事会、ビジョンデザイン方法論 WG セッション、ロードマップ WG セッション

8月 コンセプト事例発表会

9月 幹事会、ロードマップ WG セッション

10月 見学会、幹事会、ビジョンデザイン方法論 WG セッション、

11月 関東支部大会シンポジウム開催

関西支部大会シンポジウム開催

12月 幹事会

1月 幹事会、ビジョンデザイン方法論 WG セッション、ロードマップ WG セッション

2月 幹事会、ビジョンデザイン方法論 WG セッション、ロードマップ WG セッション

3月 合宿研究会、総会、幹事会

4-6. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長: 山下 利之 }

<H20.4.1～5年以内>

(1)目的

当部会は、感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を基礎から応用まで幅広く、様々な角度から議論し、研究者同士が互いに刺激し合って、優れた感性情報処理、官能評価研究が輩出されるような場を提供することを目的とする。さらに、この領域の優秀な若手研究者を育成することを目指している。

(2)手段・方法

感性の主体である人間の感覚、知覚、感情、認知のメカニズム、測定・評価方法、数理モデルに関する先端的研究を行っている研究者を招いて講演会を年3回、さらに活発な活動を行っている研究機関への見学会を年数回企画している。それらを通して、部会員の知識の幅を広げるとともに、研究者間の交流も盛んにしていく。昨年度は、日本知能情報ファジィ学会関東支部、感性工学会感性商品部会とのジョイントの講演会を開催したが、今年度も関連する諸学会との連携を深めていきたい。また、若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させるため、システム大会や人間工学会関東支部大会などで、大学院生や卒業論文を執筆した学部生などが発表する機会を積極的に作り出していきたい。

(3)期待される効果

講演会や各種見学会を通じて新しい知識や手法を知るとともに、手法の会得と目的とした各種研究会の実施により、若手研究者への啓発や本領域の研究者の裾野を増やすことが期待される。さらに、感性情報処理と官能評価手法についての理解が広まることにより、工学の様々な分野で人間理解が進み、学会における研究活動も盛んになることが期待できる。

4-7. 看護人間工学部会

{ 部会長: 樋之津 順子 }

<H20.4.1～5年以内>

(1)テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し研究成果を看護実践・教育現場にフィードバックする。

(2)手段・方法

1)第18回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成22年8月28日(土)に福岡県中小企業振興センターにおいて福岡県立大学の田中美智子教授が主催し、第18回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

2)第19回システム連合大会への参加

平成23年3月18日(金)～3月20日(日)に第19回システム連合大会が開催される予定であり、看護人間工学部会からも引き続き、幹事会に参加する。部会員に大会での演題発表、参加を呼びかける。

3)日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

4)日本人間工学会第51回大会に参加するよう呼びかける。

5)看護人間工学研究誌第11巻を発行(平成23年3月)し、部会員に送付する。

6)看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3)期待される成果

1)第18回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2)日本人間工学会第51回大会、第19回システム連合大会への発表、参加人数を増やす。

3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-8. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長:平沢 尚毅 }

<H21.4.1~5年以内>

(1)平成 22 年度研究部会テーマ

今年度のテーマとして、「社会システムなどの社会基盤の情報通信技術の適用に対する人間工学の可能性と課題」について探求してゆく。

(2)活動内容(手段・方法)

1)シンポジウム(あるいはワークショップ)の開催

社会システムの政策立案について、人間工学が果たす役割を考察するシンポジウムの場を作る。パネリストの候補として、各種の行政サービスなどに関わっている方々を招き、それぞれの立場から、住民主体のシステム作りのあり方をご議論いただく。

2)出版計画

部会の成果を出版する計画を開始する。そのために、研究部会のこれまでの実績を整理する。

3)部会運営の方法に関する検討

部会運営を円滑に実施するために、情報通信技術の適用を検討する。それによって、研究部会の審議を効率的に進める。

(3)期待される成果

行政、生活インフラ、交通など私たちの生活に強く関わる社会システムを実現するための政策立案プロセスが、人間工学の観点からどのような課題があるのかを明らかにする可能性がある。これらの課題を明確することによって、より市民中心の社会システム構築に向けた方針を見いだすことが可能になる。

4-9. 聴覚コミュニケーション部会

{ 部会長:江袋 林蔵 }

<H21.4.1~5年以内>

(1)テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成 22 年度は、第 2 会期 2 年度に当たる。第 1 会期の成果を踏まえ、アゴノミクスの分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた第 2 会期初年度は従来の活動に加え、音響学や IEA AETC との交流を図り、国際的視野からこの問題への取り組み方を模索してきた。既成学会の活動に倣いつつ、アゴノミクス研究分野における独自の領域開拓を図る。

(2)聴覚研究のミッション研究の手段

1)研究会の開催・シンポジウムの開催・他学会との交流。

2)幹事会の開催

3)ニュースレターの発行

4)ホームページの更新

(3)方法

平成 21 年度展望を踏まえ前年度に準じて活動する。また、音響学会聴覚研究会との共催を図る。

(4)期待される成果

内外における研究者情報交流の促進により聴覚コミュニケーションのアゴノミクスの分野におけるミッションを模索する。

4-10. 安全人間工学研究部会

{ 部会長:芳賀 繁 }

<H22.4.1~5年以内>

人間工学は、工業製品やワークシステムのデザインにとどまらず、社会の様々な領域における安全性の向上に大きな貢献をしている。しかし、近年「安全・安心」に対する社会的関心と要求が急激に高まる中であって、

必ずしも存在感は大きいと言えない。JR 福知山線事故の後も、食品の材料や消費期限に関する偽装表示に関連して多くの問題が明るみに出た際も、医療事故やエレベータ事故についての調査機関を設置するか否かの議論の際も、人間工学に期待する声は残念ながら湧き上がらなかった。人間工学は安全性向上について、もっと大きな力を発揮することができるし、そのことを社会にもっと認知してもらうことが必要である。そのためには、もちろん、人間工学者が安全問題に対する見識を深め、研究能力を高めなければならない。

そこで、安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題点を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的とする。2010 年度の活動計画は以下のとおりである。

- (1)安全問題に関心のある会員を部会員に募集し、メーリングリストを作って情報交換する。
- (2)安全人間工学に関連するテーマで研究会を年3回程度東京で開催する。
- (3)日本認知心理学会安全心理学研究部会の研究会を年3回程度東京で共催する。
- (4)大阪または福岡で各1回程度研究会を開催する。

4-11. 3D 人間工学研究部会

{ 部長:河合 隆史 }

<H22.6.1~5年以内>

(1)部会が取り組もうとしているテーマ

近年の立体(3D)映画の世界的な流行に伴い、その波及効果として3Dテレビや3Dゲームなどが、急速に家庭に入りつつある。しかしながら、3Dの人間工学的な側面、例えば視聴に伴う疲労をはじめ、長時間・長期間の利活用による影響や、年齢層といったユーザの属性との関連など、未知な点が多い。

そこで本研究部会では、ユーザの観点による3D研究の情報共有や、関連する多様な分野の研究者や実務者との交流・討議などを通して、その成果を学会員および広く社会へ還元することを目的とする。

(2)手段・方法

今年度は、2~4回程度、3Dに関する研究会(講演会、ワークショップなど)の開催を予定している。3Dの生体安全性をはじめ、子どもや高齢者への配慮、国際標準化といった課題においては、学会内外、国内外の関連研究部会や機関との積極的な連携・共催を検討し、具体的な企画に反映していきたい。

(3)期待される成果

3Dの国際動向が活発化している現在、当該分野の最新の知見を広く共有することにより、3Dの人間工学的な要件に関する意識を拡大し、安全かつ快適な3Dの普及に貢献していくことが期待される。

4-12. システム大会部会

{ 部長:富田 豊 }

(1)本会の目的

システム部会は、人間をシステム論的立場から研究する部会であり、毎年3月中旬に卒研究生を中心に研究成果を発表している。卒研究生は、日本人間工学会全国大会(毎年6月開催)や支部大会開催の時期ではまだ研究成果がまとまっていない状態なので、3月中旬に開かれる本部会は、社会に巣立つ卒研究生にとって重要な発表の場である。本部会の発表会は「システム大会」と称し、すでに18回開催されている。2泊3日の開催で、学生や教員や研究者も同じ宿舎に泊まりこむことで、他大学の教員や研究者と議論ができるため学生達に好評である。

(2)活動の内容

平成22年度は数回の幹事会(教員、研究者)と3月中旬の人間工学システム大会を予定している。

第2期代議員及び役員選挙報告

(平成22年社員総会～平成24年社員総会)

【理事長 1名】

齊藤 進

【副理事長 1名】

阿久津 正大

(五十音順)

【理事 27名】

青木 和夫	阿久津 正大	石田 敏郎	大久保 堯夫	大須賀 美恵子
岡田 明	垣本 由紀子	岸田 孝弥	北村 正晴	小谷 賢太郎
小松原 明哲	斎藤 真	齊藤 進	酒井 一博	三林 洋介
外山 みどり	土屋 和夫	富田 豊	萩原 啓	長谷川 徹也
八田 一利	福田 康明	堀江 良典	村田 厚生	横森 求
横山 真太郎	吉武 良治			

【監事 2名】

大内 啓子 四宮 孝史

【代議員 180名】

青木 和夫	赤松 幹之	阿久津 正大	有馬 正和	飯田 健夫
飯田 裕康	池浦 良淳	池上 徹	石田 敏郎	石原 恵子
石原 茂和	磯田 憲生	一ノ瀬 充行	泉 博之	井上 馨
井上 勝雄	井村 尚久	宇賀神 博	臼井 伸之介	宇土 博
榎原 毅	大内 啓子	大久保 堯夫	大須賀 美恵子	大杉 淳
太田 博雄	大塚 彰	大西 範和	大箸 純也	大橋 智樹
岡田 明	岡田 有策	岡本 郁子	小川 鑛一	荻須 隆雄
小澤 幸夫	落合 信寿	小美濃 幸司	小山 秀紀	香川 スミ子
垣本 由紀子	梶井 宏修	片瀬 眞由美	勝浦 哲夫	加藤 隆康
金沢 トシ子	金田 一男	金谷 未子	上西園 武良	川島 祥三
川野 常夫	神田 太樹	岸田 孝弥	北島 洋樹	北村 正晴
國澤 尚子	久保 博子	神代 雅晴	桑野 園子	鴻巣 努
小谷 賢太郎	小長谷 百絵	小松原 明哲	近藤 雄二	斎藤 真
齊藤 進	西連地 利己	酒井 一博	酒井 正幸	境 薫
坂下 哲也	佐久間 航	佐々木 正人	佐々木 美奈子	佐藤 教昭
澤 貢	澤島 秀成	三林 洋介	篠崎 彰大	篠原 一光
四宮 孝史	渋谷 雄	神宮 英夫	新家 敦	壽里 伸一
鈴木 玲子	鈴木 一弥	瀬尾 尚聡	外山 みどり	竹内 晴彦
竹ノ内 敏孝	高原 哲史	田島 一美	城 憲秀	田中 敬司
田中 勇治	田中 裕二	田宮 高信	田村 博	津久井 一平
辻 敏夫	辻 容子	土屋 和夫	露木 章史	徳田 哲男
栃原 裕	富田 明美	富田 豊	鳥居塚 崇	西 修二
西川 一男	西野 達夫	西山 勝夫	農沢 隆秀	芳賀 繁
萩原 啓	長谷川 徹也	八田 一利	馬場 宏一	羽深 太郎
久本 誠一	福住 伸一	福田 康明	福本 正勝	藤井 敦成
藤田 悦則	細川 敏幸	細田 聡	堀井 健	堀内 邦雄
堀江 良典	本多 薫	前田 享史	牧下 寛	槇塚 忠穂
増田 美恵子	松岡 敏生	松田 文子	松波 晴人	松原 行宏
松元 俊	丸本 達也	三浦 利章	三上 功生	三澤 哲夫
水垣 州子	水垣 信威千	水野 基樹	水野 有希	三戸 秀樹
皆川 克志	宮尾 克	三宅 晋司	向井 希宏	村田 厚生
村山 陵子	持丸 正明	森口 喜代	森本 一成	八木 昭宏
八木 佳子	矢口 博之	安河内 義明	柳堀 朗子	山崎 信寿
山本 栄	山本 まどか	横井 孝志	横井 元治	横井 郁子
横森 求	横山 清子	横山 真太郎	横山 詔常	吉川 徹
吉田 信彌	吉武 良治	吉村 健志	若井 正一	渡邊 裕

以上

一般社団法人日本人間工学会 2010 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当理事・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当(長期的及び継続的に実施する事業)		
総務担当	八田一利、外山みどり	学会運営の執行管理
財務担当	三林洋介、岡田 明*	財務管理と経費節減、*学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	吉武良治、下村義弘	新 HP の運用推進、GPDB による実践例公開、架け橋プロジェクト推進
編集委員会	小松原明哲、三澤哲夫	学会誌の編集と発行、査読の効率化、HP 充実、掲載論文の電子化
国際協力委員会	堀江良典、小谷賢太郎	国際人間工学連合・日韓共同シンポジウム等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、吉武良治	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	阿久津正大、矢口博之	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、HP 開設と広報
日本学術会議担当	大須賀美恵子、芳賀 繁、青木和夫	学術会議との連携拡充及び安全工学シンポジウム 2010 への協力
横断型基幹科学技術研究団体連合担当	青木和夫、山本栄、酒井一博、加藤象二郎	シンポジウム・会誌編集・産学連携事業等へ参加、学会員への広報
人間工学専門家認定機構	青木和夫、福住伸一	認定・再認定実施、講演会・シンポジウム開催、GPDB や IEA へ協力
臨時委員会・担当(目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業)		
国際人間工学連合 PSE 担当(新設)	藤田祐志	IEA における GPDB 普及活用及び資格認定制度標準化へ JES 支援
子どもの人間工学委員会(新設)	小松原明哲	子どもに関わる人間工学課題の整理、HP や大会等での成果発信
研究倫理審査検討委員会(新設)	横井孝志	研究倫理審査に関するニーズや事例・審査体制調査、要件の検討
ニーズ対応委員会(新設)	榎原 毅、岩切一幸	Web による情報発信戦略展開と産学官民 RDB 整備、IEA/PSE 支援
安全人間工学委員会	芳賀 繁、首藤由紀	HP 開設、研究部会連携、大会パネル「安全人間工学再興」企画
企業の人間工学教育のあり方検討委員会	酒井一博、易 強	企業の人間工学教育の実践、シラバス及び履修モデル見直し
テレワークガイド委員会	吉武良治、北島洋樹	テレワーク支援ツールの調査と整理、ノート PC など関連ガイド検討
人間工学技術戦略委員会	藤田祐志	技術戦略ロードマップ活用に関する検討を継続、理事会への提言
人間工学研究ガイドライン検討委員会(終了)	横井孝志	人間工学分野の規範的な実験倫理指針を学会として公開
選挙管理委員会(終了)	八田一利	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
文科省科研費担当	斉藤 進、青木和夫	時限付き分科細目表のフォロー、人間工学普及のための方策提案
第 51 回大会担当	横山真太郎	大会を 2010 年 6 月に開催
第 52 回大会担当	河合隆史	大会を 2011 年 6 月に開催